

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	玉川大学
設置者名	学校法人 玉川学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
文学部	国語教育学科	夜・通信	24	4	12	40	13	
	英語教育学科	夜・通信			12	40	13	
農学部	生産農学科	夜・通信		30	12	66	13	
	環境農学科	夜・通信			4	58	13	
	先端食農学科	夜・通信			4	58	13	
工学部	情報通信工学科	夜・通信		28	4	56	13	
	ソフトウェアサイエンス学科	夜・通信			0	52	13	
	マネジメントサイエンス学科	夜・通信			10	62	13	
	デザインサイエンス学科	夜・通信			2	54	13	
	エンジニアリングデザイン学科	夜・通信		0	0	24	13	
経営学部	国際経営学科	夜・通信		0	12	36	13	
教育学部	教育学科	夜・通信		12	21	57	13	
	乳幼児発達学科	夜・通信			7	43	13	
	教育学科	夜・通信	2	6	5	13	13	

芸術学部	音楽学科	夜・通信	24	30	2	56	13	
	アート・デザイン学科	夜・通信			4	58	13	
	演劇・舞踊学科	夜・通信			6	60	13	
リベラルアーツ学部	リベラルアーツ学科	夜・通信		2	10	36	13	
観光学部	観光学科	夜・通信		16	0	40	13	
(備考) 工学部エンジニアリングデザイン学科は令和5年度入学生より募集停止。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

(通学課程) https://unitama.tamagawa.ac.jp/ シラバス照会 を選択 キーワード 「実務」または「現場経験」 を入力 (通信教育課程) https://www.tamagawa.jp/correspondence/about/advantage/classlist.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	玉川大学
設置者名	学校法人 玉川学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.tamagawa.jp/introduction/outline/officer.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員 (東京都千代田区)	令和7年6月3日定時評議員会終結時 ～ 令和11年定時評議員会終結時まで	学識経験者
非常勤	会社役員 (東京都新宿区)	令和7年6月3日定時評議員会終結時 ～ 令和11年定時評議員会終結時まで	学識経験者
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	玉川大学
設置者名	学校法人 玉川学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) シラバスの各項目の記載内容について「授業概要」は、当該授業の内容、学問領域の中の位置付け、学修することで「わかる」「できるようになること」「期待する学修態度」などを記載し、「授業を通して修得できる力」では、本学あるいは学部の DP・CP・人材養成等教育研究に関わる目的に基づいて科目の役割と位置づけを明確に記載している。「到達目標」では、授業期間内に到達可能な内容を記載し、「授業計画」では、各授業回で学ぶ主題・テーマを記載している。「成績評価方法」については、「授業を通して修得できる力」の到達度を含めて成績評価の透明性を確保できるように詳細な情報を記載し、「授業外指示(課題等)」については、授業を受けるために前もって終了しておく準備、授業終了後に望まれるさらなる学修などを関連付けして、予習・復習内容および課題(宿題)を記載している。3月上旬から次年度の履修登録をおこなうため、大学ホームページにてシラバスを公表する。そのため、前年度の12月末から2月上旬にかけてシラバスを作成している。 通信教育課程においては、テキスト履修科目およびスクーリング開講科目のすべてについてシラバスを作成し、学生に対して公表している。シラバスには、「科目名」「使用テキスト名」「担当教員名」「科目概要」「主な到達目標」「学修テーマ」「レポート作成にあたっての留意点」「評価の観点」等の項目を明示している。 シラバスの作成にあたっては、毎年10月に開催する通信教育課程担当者会において科目担当者を決定し、その後12月に各担当教員へ執筆を依頼する体制としている。作成されたシラバスは1月末までに取りまとめを行い、内容確認を経た上で、2月以降、本学学生向けポータルサイト「WebTAMA」にて公表している。	
授業計画書の公表方法	(通学課程) https://unitama.tamagawa.ac.jp/ (通信課程) https://www.tamagawa.jp/correspondence/intra/pdf/assignment_2025.pdf

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

履修登録をしている授業科目の成績は、定期試験および平素の成績をもって評価され、その結果、合格と判定された者は、単位の認定を受ける。各授業科目の評価方法については、シラバスに掲載しており、成績評価の基準については、S (90～100：特に優秀であると評価する)・A (80～89：優秀であると評価する)・B (70～79：妥当であると評価する)・C (60～69：最低限度であると評価する)・F (59以下：不合格)となる。また、成績評価保留制度を導入し、病気・怪我・就職試験・教職課程受講に関わる実習等考慮すべき事情により、その授業の単位修得条件を満たせない場合に、学生と科目担当者との間で協議して保留を申請することができる。申請が許可されたら、特別指導を経た後、単位認定試験を実施し、評価が確定する。

通信教育課程の学修成果に対する成績評価については、シラバスに記載された評価方針に基づき、テキスト履修においては「評価基準」、スクーリングにおいては「成績評価方法」をもとに、各担当教員により厳格に評価を行っている。また、成績評価に関する学生からの問い合わせについては、「玉川大学教育学部教育学科通信教育課程規程」において明確に規定することで、厳格な成績評価を確保する体制を整備している。なお、成績評価については、学生要覧や各種ガイド等を通じて学生に周知している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学では、学生個々の学修達成度の評価法としてGPA（科目成績平均値）制度を導入している。科目履修にあたっては、単位の修得のみならず、優れた成績評価を得るよう努力させている。合格した科目の単位は各セメスター末に認定している。GPA評価は、S（4.00）・A（3.00）・B（2.00）・C（1.00）・F（0）を成績値として計算する。半期ごとに学修状況判定を設け、累積GPA2.00をクリアすることを求めている。卒業要件、警告制度、教職課程受講条件、海外留学・研修プログラム参加要件、奨学金の申請条件等にGPAを使用している。また、1～4年の学年区分に対応する修得単位数を定め、単位数を修得できない場合、4年間での卒業が延期となることがある。GPAの使用例、取得単位数から見た学年についての詳細は履修ガイドにて学生へ周知している。

GPAの算出方法

$$\text{GPA} = \frac{(\text{修得単位数} \times \text{成績値}) \text{の合計}}{\text{履修登録科目の単位合計}}$$

通信教育課程においてGPAは導入していないが、「玉川大学教育学部教育学科通信教育課程規定」において成績の評点は、S（100～90点）、A（89～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）、F（59～0点）の5種類とし、S、A、B、Cを合格、Fを不合格とする旨を規定している。また成績評価基準については、通学課程の基準を準用している。

評価	点数	評価の定義
S	90～100点	当該科目の到達目標の内容をほぼ完全に修得し、かつ応用する力がついていると認められる。
A	80～89点	当該科目の到達目標の内容を十分に理解し修得したものと認められる。
B	70～79点	当該科目の到達目標の基幹部分は理解し修得したものと認められる。
C	60～69点	当該科目の到達目標のうち、最低限の理解は得られたものと認められる。
F	0～59点	当該科目の到達目標に及ばない

客観的な指標の
算出方法の公表方法

(通学課程)
https://www.tamagawa.ac.jp/student_guidebook/2026/courses/index.html
 (通信教育課程)
https://www.tamagawa.ac.jp/info/correspondence_handbook2026/

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）においては、各学位プログラムの課程を修め、124単位以上を累積GPA2.00以上（※1）の成績で修得した者に卒業を認め、学士の学位を授与する。あわせて、以下の学士力を修得している人材を養成することを教育目標として掲げている。 (1) 知識・理解 （多文化・異文化に関する知識の理解、人類の文化・社会と自然に関する知識の理解） (2) 汎用的技能 （コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力） (3) 態度・志向性 （自己管理力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力） ※1 通信教育課程を除く。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.tamagawa.jp/university/introduction/ outline/diplomacy/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	玉川大学
設置者名	学校法人 玉川学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.tamagawa.jp/introduction/financial.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.tamagawa.jp/introduction/financial.html
財産目録	https://www.tamagawa.jp/introduction/financial.html
事業報告書	https://www.tamagawa.jp/introduction/financial.html
監事による監査報告(書)	https://www.tamagawa.jp/introduction/financial.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 事業計画書)	対象年度: 2026年度)
公表方法:	https://www.tamagawa.jp/introduction/financial.html
中長期計画(名称:	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:	https://www.tamagawa.jp/introduction/assessment/university.html
-------	---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:	https://www.tamagawa.jp/introduction/outline/accreditation.html
-------	---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的 (公表方法 https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_humanities/policy/) 文学部は、全人教育の理念のもと、国際社会の一員として社会に貢献できる高度な言語運用能力、論理的思考力および柔軟な問題解決能力を備えた人材養成を目指している。そのため、言語・文化に関する専門的知識、言語運用能力（日本語・英語）、論理的・批判的思考力、実践力というグローバル社会が求める基礎力を育成する。 国語教育学科は、国際社会の一員であるとの自覚を持ち、日本語の特質の深い理解、論理的・批判的思考力を基礎とした高度な言語運用能力と、人文学の専門的な学問領域における横断的・総合的な視点を身に付けることで、自ら課題を発見し、解決する探究力・実践力をもってグローバル社会に貢献できる人材を養成することを目的として、「文学言語思想コース」と「国語教員養成コース」を置く。「文学言語思想コース」では、論理的・批判的思考を基盤とした言語技術と豊かな専門教養を実践的に応用し、社会に貢献することができる人材を養成し、「国語教員養成コース」では、国語教育に関わる幅広い学問領域の専門性と実践力をもって、中学校・高等学校等の教育機関における国語教育に貢献することができる人材を養成する。 英語教育学科は、「グローバルコミュニケーションコース」と「英語教員養成コース」の 2 コースで構成され、グローバル化に伴う言語や文化の多様化に対応するとともに、現代社会の諸問題を解決する資質・能力を育成することを目指し、国際コミュニケーションのための高度な英語運用能力を身に付けることを共通目標としている。主体的・協働的に地域やグローバル社会に貢献することのできる人材を養成するために、「グローバルコミュニケーションコース」では、「国際共通語としての英語」の運用能力および世界の言語・文化や現代社会の諸問題に関する専門的な知識・技能を育成し、「英語教員養成コース」では、英語教員に求められる豊かな言語観・文化観と実践的な指導力を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法 https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_humanities/policy/) 文学部は、全人教育の理念のもと、国際社会の一員として貢献できる水準の言語運用能力（日本語・英語）と論理的な思考力を身に付け、社会の諸問題に的確に対応できる人材あるいは高い専門性や指導力を備えた国語教育や英語教育の専門家を養成することを目指します。 文学部で学位を取得するためには、次の能力を示すことが求められます。 ①言語や文化に関する専門的知識を修得し、適切に用いることができる。【知識・理解】 ②修得した言語運用能力と言語技術を用いて自分自身の思考を論理的に表現するとともに、多角的な視野を持って主体的に問題を解決することができる。【汎用的技能】 ③修得した言語運用能力を発揮して社会に貢献する主体的態度を有している。【態度・志向性】 [国語教育学科] 国語教育学科が重視する学士力は以下の項目であり、これらを身に付けることが卒業時の到達目標である。 ①文学・日本語学・哲学をはじめとする人文学の専門的教養を、社会との接点を意識しつつ、横断的・総合的に身に付けることができる。

②人文学の専門的な文献を読解する力、適切に情報を収集する力、および物事を論理的かつ批判的に思考する力を身に付けた上で、高度な日本語運用能力を用いて自らの考えを的確に表現することができる。

③文化やその背景となる言語の多様性を理解して尊重しつつ、自ら課題を発見し、問題解決のために多角的な視野を持って、他者と協働しながら主体的・積極的に行動することができる。

④本学科の学びの集大成として、自らが情熱を持って取り組むに値する課題に取り組み、学科が定めた評価基準を満たす卒業研究を遂行する能力を有している。

⑤修得した横断的・総合的な専門教養、および論理的・批判的思考を基盤とした言語技術を実践的に応用し、社会に貢献することができる。または、国語教育に関わる幅広い学問領域の専門性と実践力をもって、中学校・高等学校等の教育機関における国語教育に貢献することができる。

[英語教育学科]

英語教育学科が重視する学士力は以下の項目であり、これらを身に付けることが卒業時の到達目標である。

①「グローバルコミュニケーションコース」においては、「国際共通語としての英語」の高度な運用能力と、世界の言語・文化や現代社会の諸問題に関する専門的な知識および技能を駆使し、問題解決のために地域やグローバル社会で主体的・協働的に行動することができる。

②「英語教員養成コース」においては、「国際共通語としての英語」の高度な運用能力と、英語教育や世界の言語・文化、現代社会の諸問題に関する専門的な知識および技能を活用し、中学校・高等学校における実践的な英語の授業を展開することができる。

③適切な研究課題を設定して研究計画を立案し、研究を遂行するとともに、その成果を論理的・説得的にまとめることができる。

④卒業後のキャリアを主体的に探究し、その実現のために必要な計画を立て、行動を取ることができる。

⑤自らの学びを自律的に推進し、改善を図ることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法 https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_humanities/policy/)

文学部は、国語教育学科および英語教育学科の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、カリキュラム(教育課程)を編成しています。

①各学科の基礎教育科目では、言語運用能力(日本語・英語)の修得および各学科の専門教育の基礎となる教養の修得を図る。

②各学科の特質を活かした専門教育を重視し、主体的な学びを促し、それぞれの専門分野についての基本的知識・方法を身に付けるために体系的な学科専門科目を編成する。

③学科横断的な学びを促進するために、両学科に共通して必要な言語運用能力や異文化理解などに関わる科目を文学部共通科目として配置する。

④両学科・両コースともに、論理的・批判的に思考し、それを表現する力を養うために、少人数グループの協働・参加型の高度な学科専門科目を配置する。

⑤両学科の教員養成コースに、学校教育における指導力を育成するために、理論と実践を組み合わせた学科専門科目を配置する。

[国語教育学科]

①文学・日本語学・哲学など人文学の専門教養に関わる科目群、および論理的・批判的思考力、読解力・表現力などを用いて、人文学における横断的・総合的な知を探究する科目群を設定する。また、これらを基礎として、自らの人生を構想する力に資するキャリア系科目群、社会に貢献できる問題解決能力に資する科目群、教育機関における国語教育に貢献できる実践力に資する科目群を設定する。

②学びの集大成としての4年次秋学期における卒業研究に向かって、専門教養、読解力・思考力・表現力、および実践力を、学年に応じて段階的に養う科目を科目群ごとに体系的に配置する。

③「文学言語思想コース」においては、横断的・総合的な人文学の学修を基礎に、確実な言語技術、論理的・批判的思考力、実践力を伴った課題発見能力や問題解決能力を修得することで、現代のグローバル社会で活動できる力を備えることができる人文学総合教育プログラムを構築する。

④「国語教員養成コース」においては、横断的・総合的な人文学の学修を基礎に、確実な言語技術、論理的・批判的思考力、国語科の指導力を修得することで、中学校・高等学校で指導ができる力、これからの国語教育を創生できる力を備えることができる国語教員養成プログラムを構築する。

[英語教育学科]

①「グローバルコミュニケーションコース」においては、地域やグローバル社会で主体的・協働的に行動できる人材を養成するために、世界の言語・文化や現代社会の諸問題に関する専門的な科目や日本・日本語および第二外国語について学修する科目を体系的に配置する。

②「英語教員養成コース」においては、理論と実践を架橋することができる英語教員を養成するために、教育職員免許状取得に必要な科目に加え、英語教育に関する専門的な科目を体系的に配置する。

③2年次秋学期に、国内外の多様なフィールドにおける学びを自らデザインするセルフ・デザイン学期を展開し、この学期の学びを最大限に活かせるよう、前後に有機的に語学および学科科目を配置する。

④適切な研究課題を設定して研究計画を立案し、研究を遂行するとともに、その成果を論理的・説得的にまとめることができる資質・能力を育成するために、少人数制のゼミナールを配置する。

⑤卒業後のキャリアを主体的に探究すると同時にその実現に向けて必要な計画を立て、行動を取ることができる態度を育成するために、キャリアについて学ぶ科目を配置する。

⑥自らの学びを自律的に推進し、改善を図る上で必要な資質・能力を獲得するために、学び方の学習やリフレクション活動を組み込んだ科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法 https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_humanities/policy/)

(概要)

文学部は、全人教育の理念のもと、国際社会の一員として貢献できる日本語および英語運用能力と論理的な思考力を身に付け、社会の諸問題に的確に対応できる人材や、高い専門性や指導力を備えた国語教育もしくは英語教育の専門家を養成することを目指しています。そのために、文学部の入学者のアドミッション・ポリシーを以下のように設定します。

①高等学校で学習する教科内容について、高等学校卒業相当の知識を有していることを高等学校での成績および入学試験で示すことができる。

②他者の考えを理解し、自己の考えを表現するために必要な日本語および英語運用能力を身に付けていることを成績、入学試験、あるいは外部検定試験で示すことができる。

③各学科のカリキュラムを理解し、そのカリキュラムのもとで学修する意欲を説明することができる。

④本学部での学びを活かし、卒業後に社会の一員として貢献する意欲を示すことができる。

[国語教育学科]

国際社会の一員であるとの自覚を持ち、人文学の専門的かつ総合的な探究力、国際的なコミュニケーションに対応する言語運用能力を主体的に身に付け、社会の多様な場面に的確に対応しつつ積極的に社会に貢献できる人材、国語教育を実践・創生できる人材を養成することを目指している。そのために、国語教育学科ではアドミッション・ポリシーを以下

のように設定する。

- ①日本語の基礎的な運用能力を身に付けていることを成績、入学試験、あるいは日本語運用能力に関する外部検定試験で示すことができる。
- ②高等学校で学習する教科内容について（古文・漢文を含む）、高等学校卒業程度の学力を有していることを成績および入学試験で示すことができる。
- ③本学科のAP・CP・DP、および学科・コースにおけるカリキュラムの特徴について、入学試験で示すことができる。
- ④読書習慣を活かしつつ、自分で情報を集め、自分で考え、それを表現するという経験を有しているとともに、批判的読解力・論理的思考力・表現力への関心を持ち、それらを身に付ける意欲を有していることを示すことができる。
- ⑤在学中および卒業後にわたって、自らが情熱を持って取り組むに値する課題を見出し、それに取り組む知的探究心を有していることを示すことができる。
- ⑥在学中および卒業後にわたって、人文学の教養を身に付けた上で、社会の様々な分野で貢献する意欲を示すことができる。

[英語教育学科]

「国際共通語としての英語」の高度な運用能力と、世界の言語・文化や現代社会の諸問題に関する専門的な知識および技能を駆使し、問題解決のために地域やグローバル社会で主体的・協働的に行動することができる人材、および中学校・高等学校で実践的な英語教育を展開できる人材を養成することを目指している。そのために、英語教育学科ではアドミッション・ポリシーを以下のように設定する。

- ①高等学校で学習する教科内容について、高等学校卒業相当の知識を有しており、特に英語の学習で成果を上げていることを高等学校での成績および入学試験で示すことができる（入学時に実用英語技能検定2級相当以上の英語力を有していることが望ましい）。
- ②コミュニケーションや現代社会の諸問題に対する興味・関心を有し、本学科での学びに意欲的に取り組む姿勢を入学試験で示すことができる。
- ③本学科での学びを活かし、卒業後に英語を駆使して地域やグローバル社会に貢献する意欲を入学試験で示すことができる。

〈入試に係る取組・改善状況〉

総合型選抜および学校推薦型選抜においては、受験生に対する評価基準の透明性を高めるため、2021年度入試より入学試験要項に「評価割合」および「評価の観点」を明記している。

2026年度入試においてもこれを継続し、評価項目の配分および評価視点を明確に示すことで、文学部が求める学生像の理解促進および適切な志願者の確保を図っている。

出願資格においては、高等学校における学習成績の状況が本学の定める基準に満たない場合であっても、本学が指定する資格・検定試験において一定以上の級またはスコアを取得している場合には出願を認める措置を講じている。

一般選抜においては、受験生に対する評価基準の透明性を高めるため、2026年度入試より入学試験要項に「評価割合」および「評価の観点」を明記している。

一般選抜の「英語」科目については、新学習指導要領への対応として、文部科学省が示す「総合的な英語力評価の推進の考え方」に基づき、2025年度入試より評価方法を見直した。具体的には、英語4技能（読む・聞く・話す・書く）を総合的に評価する観点から、従来の個別試験を廃止し、英語外部試験のスコアまたは大学入学共通テスト「外国語（英語）」の得点を換算して評価に活用している。

2027年度入試においてもこの方式を継続し、グローバル社会で求められる実践的な英語運用能力の評価を行う。

学部等名 農学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_agriculture/policy/) (概要) 農学部は、これからの日本に求められる国際競争力の維持・向上、活力ある地域社会の構築という重要課題に「農学」という「食」、「環境」、「健康」に直結する学問領域を通じて、果敢に取り組み、問題を発見・解決する意欲と実行力のある人材の養成を目的とする。実物教育、総合的・学際的視点、国際性、倫理観の4つを重視する教育・研究を展開し、「生産農学」、「環境農学」、「先端食農」という広い視野で農学全般を捉えることを特色とする。これらを通じ、科学の基本である「なぜ？」という鋭い視点を持つ知的好奇心旺盛な人材育成を達成する。 生産農学科は、あらゆる生物を人間生活の貴重な「資源」としてとらえ、生物の持つ機能や特性を分子から個体の視点で追究できる人材の養成を行う。具体的には、有用微生物や有用天然物の探索、遺伝子組換え・昆虫の飼育・植物の栽培などの理論と技術を学修後、新機能の開発に結び付く研究を進める。これらの学修を通じて「生命の尊厳」・「他の生物との共存」などの倫理観を培い、食と農の安全安心に貢献できる人材育成を目指す。また、生産農学科は教員を養成するコースを設けており、中学・高等学校（理科）および高等学校（農業）教員を育成する。 環境農学科は、「環境」を中心に「自然、農業、社会のつながり」をよく理解し、国際性と地域性の多様なセンスを兼ね備え、「持続可能な開発目標、SDGs」の達成に貢献できる人材の養成を行う。具体的には、農学に関する分野・諸問題に強い興味や取り組む意欲を持ち、理論的学修と実践的・体験型学修を組み合わせた「環境」理解に基づいて、様々な問題解決に必要となる主体性と協調性を身に付けた人材を育成する。 先端食農学科は、食料や食品の安全性や信頼性に関心が高まる中、既存の農業を越えた新たな食料生産のしくみや食品の機能性、食品製造に関わる専門的な知識と実践的な能力を身に付けた人材を養成することを目的とする。植物工場や陸上養殖など最先端のシステム化された食料生産に関する知識や能力を修得し、また食品の機能性や安全性、食品の製造・加工に関する知識や能力を習熟できる学修環境の提供を通じて、食料生産、食品加工の現場で活躍できる人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_agriculture/policy/) 農学部は、人材養成等教育研究に係る目的に基づくカリキュラムを通して、以下の知識・技能・態度を学士力として修得・涵養し、卒業要件を充足した人に、学士（農学）の学位を授与する。 ①農学をはじめとし、様々な自然科学分野の情報を、収集・分析・理解・説明することができる。 ②生物学や化学を基盤とした農学に関連する科学的知識を、社会で必要とされる新たな知識・技術の発見や獲得、持続可能な発展、地域や地球規模での環境保全に応用できる。 ③社会の一員として、協調性や共同作業における役割分担の重要性を理解し、それらの態度・志向性を持ち、生涯にわたって学ぶ姿勢を維持・向上することができる。 また、それらを通じて社会に貢献できる。学位授与に当たり、各学科が重視する学士力は次の通りである。 [生産農学科] 生産農学科が重視する学士力には以下の項目が挙げられ、これらの力を身に付けることが卒業時における到達目標となる。 (生物資源コース、生命科学コース) ①生物資源を有効利用するために必要な自然科学の情報を収集・分析・理解し、正しく活

- 用することができる。
- ②農学に関連する専門的知識や理論を体系的に修得、理解し、関連産業の持続可能な発展や環境保全に応用できる。
- ③実験・実習を通して技術と理論を修得することができる。
- ④農学の学びに基づいて、協調性や倫理観を身に付け、社会に貢献できる。

（理科教育コース）

- ①自然科学の情報を、収集・分析・理解・説明することができる。
- ②協調性や共同作業における役割分担の重要性を理解し、それらの態度・志向性を持ち、生涯にわたって学ぶ姿勢を維持・向上することができる。また、それらを通じて社会に貢献できる。
- ③理科や農業の面白さや大切さを理解し、理科教育または農業科教育に必要な情報を収集・分析・理解し、生徒等にわかりやすく説明できる。
- ④理科教育や農業科教育に必要な実験や実習を、生徒等に正しく、安全に指導できる。
- ⑤コミュニケーション力、語学力、文章作成力、計算力、協調性など、様々な問題に対する解決能力を修得し実践できる。

〔環境農学科〕

環境農学科が重視する学士力には以下の項目が挙げられ、これらの力を身に付けることが卒業時における到達目標となる。

- ①「環境」を中心に「自然、農業、社会のつながり」について理論的に学修し、理論的学修成果と実験・実習などの実践的・体験型学修を結び付け、環境問題に様々なレベルで対応できる知識・技術を修得する。
- ②海外留学（カナダ、ニュージーランド）および国内（北海道、鹿児島県、箱根町）にある本学の各施設を利用したカリキュラムにより、「環境」や「自然、農業、社会のつながり」の相違点や類似点を比較し、国際的・地域的に理解できる。
- ③国際社会の一員として、協調性、寛容な態度や社会貢献の重要性を理解し、それらを生涯にわたり向上し続ける意欲と技能を修得する。
- ④言語や文化の多様性を理解、受容でき、問題解決のために国際性と地域性の多様な視野を持って積極的に行動することができる。
- ⑤国際社会の現場で必要となる、エントリーレベル以上の英語運用能力（TOEIC®L&R600 点以上のスコア）を保有している。

〔先端食農学科〕

先端食農学科が重視する学士力には以下の項目が挙げられ、これらの力を身に付けることが卒業時における到達目標となる。

- ①世界の食料生産や食料需給、食品加工や食品製造に関わる状況を理解し、それらに関わる専門的な知識と実践的な能力を修得することにより、社会で必要とされる食料生産や食品加工の現場で貢献できる。
- ②自然科学、特に化学と生物学を習熟した上で、食料生産や食品加工について修得した知識と実践的な能力を食料の生産、加工現場に適用して活かすことにより、安全で効率的な食料供給に貢献できる。
- ③実験実習と講義を並行しながら理論とスキルを修得することができる。
- ④情報を収集し、分析することで、自ら解決法を考え提示することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_agriculture/policy/）

農学部の人材養成等教育研究に係る目的ならびに卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づいて、入学者が主体的に学修に取り組み、教職員による教育・支援および指導の下で自らの目標を達成できるよう体系的な教育課程を設けている。また、この教育課程の編成に当たっては、社会が要請する「学士力の養成」や「キャリア形成」、すなわち大学を卒業した人が備えているべき資質も重視している。さらに、グローバル社会に

対応するための英語力獲得を目指す。各学科の教育課程については、以下の方針に基づいて構築している。

[生産農学科]

(生物資源コース、生命科学コース)

- ①1 年次では「化学」、「生物学」、「生物統計学」などの基礎科目を履修し、農学を学ぶ上での基礎学力を修得する。
- ②2 年次からは生物資源コースまたは生命科学コースを選択する。生物資源コースでは、「生態学」「生物多様性学」「作物学」など、生物のマクロな事象を、フィールドからの視点で学修し、生命科学コースでは、「細胞生物学」「分子生物学」「動物生理学」など、細胞、分子、遺伝子といったミクロな事象をラボからの視点で学修する。
- ③実験の基礎や応用技術を修得できるように、実験科目を配置する。1 年次と 2 年次には「基礎生物学実験」「基礎化学実験」「生物化学実験」で実験の基礎を学び、3 年次には「専門実験・実習 A・B」で専門性の高い実験へステップアップを図る。
- ④実習の基礎知識や応用技術を修得するために、1 年次と 2 年次に「フィールド実習 A・B」を配置する。3 年次の「フィールド実習 C」では、北海道や鹿児島県の学外農場を利用して、それぞれの地域の特色ある実習を体験し、技術の向上を図る。
- ⑤3 年次からは 4 つの領域に所属して、専門的な学修を進める。3 年次の「生産農学演習 A」、4 年次の「生産農学演習 B・C」では文献調査を行い、ディスカッションを通して専門的知識の統合や理解を深める。また 4 年間の集大成として、「卒業研究 A・B」「卒業研究論文」を履修して、専門分野の研究を行う。

(理科教育コース)

- ①1 年次から「化学」や「生物学」などの基礎科目に加えて「教職関連科目」を履修し、教職に就くために必要な知識と姿勢を、早い段階から修得する。
- ②理科および農業科教員に必要な「物理学」と「地学」に加えて、生産農学科で開講される専門科目を履修することで、自然科学の幅広い知識を身に付ける。
- ③2 年次から「理科指導法」「農業科指導法」を学び、3 年次から「化学実験スキル」「生物実験スキル」を履修して、理科および農業科教員としての指導力を身に付ける。
- ④1 年次と 3 年次の「学校体験活動 A/B」、2 年次の「介護等体験」、4 年次の「教育実習」を学校現場で経験するとともに、「教材研究」に取り組んで、理科および農業科教員としての実践力を身に付ける。

[環境農学科]

- ①国際共通語としての英語運用力を高めるとともに異文化を理解し、国際的なセンスを身に付けるため、原則として 2 年次に全員が海外留学に参加する（約 4 ヶ月間）。1 年次（留学前）に留学に必要な英語力と基礎知識を高め、留学後にその成果を振り返り、卒業時まで英語運用力のさらなる向上を図る。
- ②地域性理解のため、全員が北海道または鹿児島県の本学施設での実習に参加する（約 10 日間）。
- ③3 年次後半から生態系科学領域、持続的農学領域のいずれかに所属して学修を深める。
- ④4 年次にはより専門的な分野に分かれて卒業研究に取り組み、4 年間の学修の総まとめを通して、本学科の到達目標と学士力の達成度を確認する。

[先端食農学科]

食と農に関わる教育・研究を修めるために、講義科目と実験、実習、演習科目の相補性を考慮し、基礎から専門へと実践力の獲得が可能な科目配置とした。

1 年次には「生物学」「化学」「基礎生物学実験」「基礎化学実験」といった基礎的知識や技術を修得するための科目を、2 年次には「生物化学 A・B」「微生物学」「食品製造科学」「食品機能化学」「園芸学」「植物栄養学」「先端食農実験」「農薬化学」「植物生理学」といった基本的な知識や技術を修得し専門領域へと導入するための科目をそれぞれ配置し

ている。3年次では、4年次での専門的な教育研究に向けて、「生物化学C」「食品衛生学」「栄養生理化学」「応用栄養学」「畜産物利用学」「専門領域研究A・B」などの科目を配置している。また、「フィールド総合実習A・B・C」「先端食農実習」「食品加工実習」などの実習科目も設置され、個々の学生が自身の研究テーマを決定できるように工夫している。そして、4年次は集大成として各自の研究テーマに基づいて卒業研究を行い、論文を作成できるよう「先端食農演習A・B」「卒業研究A・B」「卒業研究論文」といった科目を配置している。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_agriculture/policy/)

(概要)

農学部では、玉川大学の建学の精神・教育理念、農学部教育の方針を基盤とし、国際社会が必要とする能力と態度を備えた人材の養成を担う高等教育機関としての役割を果たすため、以下に示す各学科のアドミッション・ポリシーを設定する。

[生産農学科]

生産農学科ではあらゆる生物を人間生活の貴重な「資源」としてとらえ生物の持つ機能や特性を分子から個体の視点で追究できる人材の養成を目指している。そのためアドミッション・ポリシーを以下のように設定する。

(生物資源コース、生命科学コース)

①高等学校の課程における理数系科目（生物、化学、数学）の教科書レベルの知識を持つ人。また、語学系科目に対する学力の指標の一つとして、関連する検定（実用英語技能検定準2級程度）、テスト（TOEIC®L&R400点程度）などで相応のスコアを有していることが望ましい。

②農学に対して関心を持ち、積極的に専門知識を学ぼうとする姿勢を持つ人。

③実験や実習にも積極的に取り組む意欲を持つ人。

④自分の考えをしっかりと言葉で表現でき、かつ互いに議論でき、協調性のある人。

(理科教育コース)

理科教育コースについては、上記に加え、以下も要項として求める。

①自然科学全般に対して強い関心を持つ人。

②理科教員や農業科教員、または教育関連の職業に就くことを第一目標としている人。

③理科や農業の面白さや大切さを、自らの経験を通して生徒に伝えることのできる教員を目指す人。

④教材研究などに積極的かつ安全に取り組める人。

⑤コミュニケーション力、文章作成力、協調性を備え、様々な問題の解決に主体的に取り組める人。

[環境農学科]

環境農学科では、「環境」を中心に「自然、農業、社会のつながり」をよく理解し、国際性と地域性のセンスを兼ね備え、「持続可能な開発目標、SDGs」の達成に貢献できる人材を養成することを目指す。そのために、アドミッション・ポリシーを以下のように設定する。

①高等学校の課程における理数系科目（生物、化学、数学）の教科書レベルの知識を持つ人。また、語学系科目に対する学力の指標の一つとして、関連する検定（実用英語技能検定準2級程度）、テスト（TOEIC®L&R400点程度）などで相応のスコアを有していることが望ましい。

②自然環境や農業における諸問題や異文化交流を踏まえた国際協力について、常に問題意識を持って考えられる人。

③海外留学に4ヵ月間参加することを承諾できる人、在学期間を通して英語に関する授業に積極的に取り組むことができる人。

④本学科で学んだことを活かし、卒業後に環境・農業分野をはじめとし、様々な分野で貢

献する意欲を有する人。

[先端食農学科]

先端食農学科では、世界の食料生産や食料需給、食品加工や食品製造に関わる状況を理解し、それらに関わる専門的な知識と実践的な能力を修得することにより、社会で必要とされる食料生産や食品加工の現場で貢献できる人材の養成を目指す。そのためのアドミッション・ポリシーを以下のように設定する。

①高等学校の課程における主要な科目（生物、化学、数学）の教科書レベルの知識を持つ人。また、語学系科目に対する学力の指標の一つとして、関連する検定（実用英語技能検定準2級程度）、テスト（TOEIC®L&R400点程度）などで相応のスコアを有していることが望ましい。

②食料生産、食料供給、食品製造、食品加工などについて問題意識を持ち、食料や食品に関する新しい技術やその開発に関心を持って取り組むことができる人。

③本学科で学んだことを活かし、卒業後に食料生産や食品製造加工をはじめとする様々な分野で貢献する意欲を有する人。

〈入試に係る取組・改善状況〉

総合型選抜および学校推薦型選抜においては、受験生に対する評価基準の透明性を高めるため、2021年度入試より入学試験要項に「評価割合」および「評価の観点」を明記している。

2026年度入試においてもこれを継続し、評価項目の配分および評価視点を明確に示すことで、農学部が求める学生像の理解促進および適切な志願者の確保を図っている。

出願資格においては、高等学校における学習成績の状況が本学の定める基準に満たない場合であっても、本学が指定する資格・検定試験において一定以上の級またはスコアを取得している場合には出願を認める措置を講じている。

総合型選抜においては、2024年度入試より「理工系女子総合型入学審査」を新設した。本制度は、農学分野に対して強い関心と学習意欲を持つ女子生徒を対象とし、当該分野における女性人材の育成を目的としている。

2027年度入試においても本制度を継続し、志願者層の拡充および分野の特性に応じた人材確保を図る。

一般選抜においては、受験生に対する評価基準の透明性を高めるため、2026年度入試より入学試験要項に「評価割合」および「評価の観点」を明記している。

一般選抜の「英語」科目については、新学習指導要領への対応として、文部科学省が示す「総合的な英語力評価の推進の考え方」に基づき、2025年度入試より評価方法を見直した。具体的には、英語4技能（読む・聞く・話す・書く）を総合的に評価する観点から、従来の個別試験を廃止し、英語外部試験のスコアまたは大学入学共通テスト「外国語（英語）」の得点を換算して評価に活用している。

2027年度入試においてもこの方式を継続し、グローバル社会で求められる実践的な英語運用能力の評価を行う。

学部等名 工学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_engineering/policy/)
工学部では全人教育の下、人間力を備えたものづくりの実践的技術者を育成することをミッションとしている。教育研究に取り組む学部の基本的なスタンスとして、「技術者は、技術の進歩を追求する技術者である前に、人間であることを希求すること」「失敗を恐れず人生の開拓者として絶えず夢に挑戦する技術者であること」「現状の正しい認識の上に、常に将来を見据えた前向きな姿勢で迅速な改革に取り組むこと」を前提に実技教育、労作教育を展開する。また自然尊重、地球環境に留意し環境教育を実践する。その結果、社会人として十分な品格を持った人間性豊かで、コミュニケーション力、問題発見・解決能力を備え、環境にも配慮した新たな価値を創造できる技術者の育成に努める。 情報通信工学科では、人と人をつなぐコミュニケーション能力と技術を身に付け、現代のグローバルな情報化社会で活躍できる正しい倫理観を持つ人材を育成する。特に、社会におけるさまざまな物やシステムの情報制御技術、対人サービスのための知能ロボット、クラウドコンピューティングにおけるビッグデータ解析などのデータサイエンス、情報セキュリティおよび高速通信技術といった、時代に即した技術イノベーションの基礎を学ぶ。 ソフトウェアサイエンス学科では、現代社会のインフラストラクチャーとして、生活に不可欠なコンピュータやネットワークを支えるソフトウェア技術を習得した高度情報社会を支える技術者を育成する。教育目標は、ソフトウェア技術およびこれによって実現している身近な携帯電話、ゲーム機、デジカメ、ビデオ、家電製品、自動車などのさまざまな技術を、総合的に修得し、健全な技術として発展させられる見識を持った全人的技術者を育成することにある。 マネジメントサイエンス学科では、教育目標として科学的なアプローチを中心に激変する企業経営に対応できる人材育成を目指している。さらに実践的な経営者・技術者として必要な倫理観を備えた人材の育成、問題発見能力、問題解決能力、評価能力を備える人材の育成を目指している。また社会が求める新たな価値創造のできる実践的な経営者・管理者・技術者の知識が獲得できるように教育プロセスの改善を教員が推進する。 デザインサイエンス学科では、解が一つに定まらない社会の課題に対し、機械工学分野を中心とした科学、技術を活用して、実現可能な解を見つけることができる「デザイン能力」を有する技術者の育成を目的とする。物理学や数学のような自然科学および人間中心の社会を実現する工学に関する学問と、さまざまな社会科学・人文科学の知識・技術を融合し、社会の一員として地球環境・人類にとって有益となる社会の仕組みや製品を科学的な視点によって生み出すことができる人材を育成する。 情報通信工学科、ソフトウェアサイエンス学科、マネジメントサイエンス学科、デザインサイエンス学科は、数学教員養成プログラムを持つ。1年次から数学を専門として学び、数学の深い知識と幅広い教授法を身に付けた数学教員を養成する。 エンジニアリングデザイン学科は、ものづくりに欠かせない従来技術分野の修得はもちろんのこと、グローバルに展開する産業界のニーズに適合しうる人材養成を目的とする学科で、「機械工学」分野を中心として図面の読める経営者や経営に参画できる技術者の養成を目的とする。具体的には、ものづくりに不可欠な設計・製図・実験などの修得だけではなく、デジタル生産技術・人間工学・工業デザインなどを取り込むことにより、技術者、経営者としてグローバルに活躍できる人材を輩出する。 (エンジニアリングデザイン学科 令和5年度より募集停止)

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_engineering/policy/)

工学部では、人材養成等教育研究に係る目的を達成させるために、次のような能力を身に付けさせます。

- ①時代をリードする「自然と共生できる工学」「人を思いやる工学」の実践を通して、社会人として十分な品格を持った豊かな人間性
- ②工学に関する専門の知識や技術のほか、コミュニケーション力、問題発見・解決能力
- ③数理、データサイエンス、AIに関する知識とスキルを活用し、デジタル技術の進展に対応した新たな価値を創造する能力

各学科では、さらに下記の能力を身に付け、かつ所定の単位を修得した学生は卒業が認定されます。

[情報通信工学科]

- ①人と人のコミュニケーションを基盤としたより良い社会を築くため、情報・通信技術者としての幅広い素養と倫理を身に付けている。【態度・志向性】
- ②グローバルな社会で活躍できる工学技術者として、技術的な議論ができる英語力と数理能力を身に付けている。【知識・理解】
- ③問題の発見能力、分析能力、解決能力、表現能力等を養い、深い洞察と考察ができる能力を身に付けている。【汎用的技能】
- ④結果を体系的にまとめあげ、発表することでプレゼンテーション能力を高め、かつ技術者として論理的に討議できるコミュニケーション能力を身に付けている。【統合的な学修経験と創造的思考力】

[ソフトウェアサイエンス学科]

- ①専門科目の履修を通して、コンピュータ・ソフトウェア技術、情報セキュリティ・モバイルネットワーク技術、ゲーム・コンテンツ関連技術、情報・数学教員のなかから1つ以上の専門分野に対する深い理解と高い技能を身に付けている。【知識・理解】
- ②ユニバーシティ・スタンダード科目の履修を通して、学際的・国際的な幅広い社会的教養を修得し、更なる学問を追求する姿勢を身に付けている。【汎用的技能】
- ③自らの考えを正確かつ分かりやすく他者に伝えるとき、他者の考えを正確に理解するように努め、技術者・教育者として論理的に討議や助言ができるコミュニケーション能力を身に付けている。【態度・志向性】
- ④卒業研究では、その結果を研究論文として体系的にまとめあげ、発表することでプレゼンテーション能力を高め、かつ技術者・教育者としての学修経験によって、専門分野における問題を発見し解決する力および新しい価値を創造する力を身に付けている。【統合的な学修経験と創造的思考力】

[マネジメントサイエンス学科]

- ①仕事に必要な学修を自主的に行い得る基礎的学修能力を身に付けている。【知識・理解】
- ②世界の主な国々の文化の相違を理解することで多面的に物事を考える能力を持ち、わが国の社会人としての品格（知識・教養・感性・判断力など）を身に付けている。【態度・志向性】
- ③科学や技術が社会に及ぼす影響と、技術者・経営者・教員が社会に対して負っている責任と倫理を理解でき、科学や技術を的確に応用して問題解決に対処する能力を身に付けている。【統合的な学修経験と創造的思考力】
- ④計画的状況にも非予測的状況にもチームワークやリーダーシップをとることができ、論理性をもとにした双方向的コミュニケーション能力をもって対処する能力を身に付けている。【汎用的技能】

[デザインサイエンス学科]

- ①自然や社会のさまざまな事象を詳細に理解するために、物理学や化学、数学など、工学に関連する自然科学の基礎分野に加え、社会科学・人文科学の基礎および英語をはじめとした語学力を身に付けている。【知識・理解】
- ②プロダクトデザイン、ロボットデザイン、新エネルギーを中心とした環境デザイン等の領域を基盤とし、幅広い視野と適切な判断力をもって社会課題の解決を目指した企画・設計・実行・報告を実践することができる。【汎用的技能】
- ③演習や実習を通して、工学におけるコミュニケーションの重要性を理解し、主体的に実行できる力、課題を発見できる力、他者と協調して課題を解決することができる力を身に付けている。【汎用的技能】【態度・志向性】
- ④さまざまな事象を科学的かつ学際的に分析することにより、社会の一員として解決すべき課題を発見することができる。【汎用的技能】【総合的な学修経験と創造的思考力】
- ⑤幅広い視野とイノベーション力によって、社会の課題の最適解を見つけ、その実現を目指すことができる。【汎用的技能】【総合的な学修経験と創造的思考力】

[数学教員養成プログラム]

- ①教員に必要な能力開発を自主的に行い得る基礎的学修能力を身に付けている。【知識・理解】
- ②世界の主な国々の文化の相違を理解することで多面的に物事を考える能力を持ち、教員としての品格（知識・教養・感性・判断力など）を身に付けている。【態度・志向性】
- ③教員が社会に対して負っている責任と倫理を理解でき、教育現場での問題に対処する能力を身に付けている。【統合的な学修経験と創造的思考力】
- ④慈愛と論理性をもとにした双方向的コミュニケーション能力をもって、生徒に対処する能力を身に付けている。【汎用的技能】
- ⑤専門科目の学びを教育現場に応用する能力を身に付けている。【知識・理解】

[エンジニアリングデザイン学科]

- ①自然科学や工学に関する基礎知識を持ち、将来技術者や経営者として他者と協創・協働できる力および企画力、マネジメント力を具備している。【知識・汎用的技能】
 - ②設計・デザインに関する専門知識を修得し、これからのものづくりに精通した人材として新たな課題の解決に貢献することができる。【統合的な学修経験と創造的思考力】
 - ③設計・デザインに関する様々な情報を収集・分析・理解し、自らの考えを構築・発信することができる。【汎用的技能】
 - ④グローバル時代において、高い倫理観を持ち、日本国内ならびに海外において協業できる素地を会得している。【態度・志向性】
- (エンジニアリングデザイン学科 令和5年度より募集停止)

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_engineering/policy/)

工学部では、人材を養成するために、各学科で以下の方針に基づき学科カリキュラムを構成しています。

[情報通信工学科]

- ①数学、物理、プログラミングにおいて徹底した基礎教育を行う。【知識・理解】
- ②組み込み技術は、情報通信の基盤を支える必要不可欠な技術であるとの判断から、関連する『プログラミングⅠ』『プログラミングⅡ』『電気回路入門』『センサ工学』『インテリジェントデバイス入門』の講義科目と『情報工学実験Ⅰ』『情報工学実験Ⅱ』の実験科目を必修とする。【知識・理解】
- ③将来の就職先ならびに専門性を考慮し、専門領域は、「情報・通信」と「人工知能・ロボティクス」の2領域で構成する。【知識・理解】
- ④データサイエンス技術を確率・統計の基礎から身に付けることができるように、『データサイエンス入門』『データサイエンスⅠ』『データサイエンスⅡ』を設置する。【知識・理解】

⑤大学院での研究に繋がる専門的な内容が修得できるように、発展的な専門科目として『人工知能』『光通信工学』という2つの4単位科目を4年次前期に設置する。【統合的な学修経験と創造的な思考力】

[ソフトウェアサイエンス学科]

- ①コンピュータ・ソフトウェア技術、情報セキュリティ・モバイルネットワーク技術、ゲーム・コンテンツ関連技術、情報・数学教員の4分野の専門知識および技能を体系的に修得するための専門科目を設置する。そして自己研鑽を積み重ね、スキルアップを継続する力を養成することを目的として、資格取得を支援する活動を行う。
- ②プログラミングは本学科の教育の根底をなす理論、概念、技術であるため、少人数クラスによる徹底教育を行う。
- ③最先端技術、市場動向、会社における企業理念などについて学ぶために『企業講義』（株式会社日立製作所）を開く。
- ④ゲーム・コンテンツ分野では、プログラミング技法などの技術的側面を中心としながら、コンテンツ、企画開発に関する内容も扱う。
- ⑤3年次までに修得した専門知識および技能を活用することによって、専門分野における問題を発見・解決し、その成果を論理的かつ簡潔に伝達する能力を養成するために、『卒業研究』を必修科目として設置する。

[マネジメントサイエンス学科]

- ①1年次において言語能力（日本語、英語）と論理的思考（数学）を徹底的に育成し、必要な学修や知識の習得を自主的に行う姿勢を身に付ける。
- ②2年次では上記に加えて、専門科目のなかで分析能力とプロジェクト運営能力を育成することを通じて、最後までやり遂げる力とコミュニケーション能力の基礎を形成する。
- ③3・4年次において専門科目をさらに発展させ、基礎力をどのように応用するかといった真の実践能力を育成していく。
- ④ビジネスパーソンとして必要とされる基礎力を高度に育成することができた人材を早期に発見し、特別に海外語学研修や企業への参画を経験させ、より成熟した形で世の中へ送り出すプログラムを用意する。

[デザインサイエンス学科]

- ①「デザイン能力」の基盤（課題を理解する力）を身に付けるために、数学・物理学・化学・科学論などの自然科学分野から、経済学・社会学などの社会科学分野、芸術・哲学・英語・日本語などの人文科学・語学分野まで、多様な学問分野を幅広く学ぶ。
- ②課題を発見し解決する力を身に付けるために、工学倫理、知的財産分野（特許や工業デザインなどの知的財産権）、デザイン分野（人間工学・プロダクトデザインなど）、ロボット分野（機構デザイン・メカトロニクス）、環境分野（ソフトエネルギー・都市環境デザインなど）について、地球環境・人類にとって有益であるという観点を基本にして学ぶ。
- ③課題の解決策（解）を社会実装するために、現場での実体験を重視した実験・実習・演習科目を通じて、創造力・コミュニケーション力・イノベーション力を養い、企画・設計・実行・報告などの能力を身に付ける。
- ④課題を多角的に把握するために、商品企画・マーケティング・資金調達などのビジネス分野も学ぶと同時に、研究室活動・学内外各種コンテスト・学会活動等を通じて、再度、課題の発見と解の策定を統合的に学び、「デザイン能力」の完成を目指す。
- ⑤「より高度な社会貢献度を持つデザイン能力」を修得するための大学院進学も見据えて、学部最終学年では、さらに専門性の高い大学院設置科目を先行して学ぶことができる。

[エンジニアリングデザイン学科]

- ①工学部における設計・デザインの専門教育に必要な数学・物理・化学・英語・日本語の基礎を学び、十分な基礎学力を身に着ける。
- ②デジタルなものづくりは21世紀社会における技術者に必要な知識であるとの判断から、

『デジタルファブリケーション入門』を必修とし、『デジタルファブリケーション』、『デジタルファブリケーション実習』を選択とする。 ③将来の就職先ならびに専門性を考慮し、専門領域は「商品デザインプログラム」、「デジタルものづくりプログラム」、「ロボットプログラム」で構成する。 ④専門分野における問題を発見・解決し、その成果を論理的にまとめ、プレゼンテーションする能力を養成するために、卒業研究を必修科目として設置する。 (エンジニアリングデザイン学科 令和5年度より募集停止)
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_engineering/policy/)
(概要) 工学部では、玉川大学の教育信条に基づき、幅広い教養を持つ人間力を備えた実践的技術者を世に送り出すことを共通に目指しています。そのために、以下のような入学生を求めています。 [情報通信工学科] ①高等学校の課程における主要な教科(数学、理科(物理・化学)、外国語(英語)、国語等)の教科書レベルの基礎知識を有する人。数学は実用数学技能検定2級程度の学力を有する人。文章を正しく読解し、適切な表現を用いて論理的に記述する基礎的な能力を有する人。英語は実用英語技能検定準2級程度、またはTOEIC®L&R400点程度の学力を有する人。【知識・理解】 ②学内外の活動などにも積極的にに関わり、人間力の向上を目指す人。【態度】 ③卒業までに外国人と意思疎通のできる英語力を修得することとともに、工学として必要な情報処理能力および数理的能力を修得することを目標にできる人。【態度・志向性】 ④工学的成果を人類の社会福祉に役立てようとする倫理観を持つ人。【関心・意欲】 ⑤新しい技術を創造するための専門知識を身に付けることを目標に、たえず努力することができる人。【態度・志向性】 [ソフトウェアサイエンス学科] ①高等学校の課程における主要な教科(数学、理科(物理・化学)、外国語(英語)、国語等)の教科書レベルの基礎知識を有する人。数学は実用数学技能検定2級程度の学力を有する人。文章を正しく読解し、適切な表現を用いて論理的に記述する基礎的な能力を有する人。英語は実用英語技能検定準2級程度、またはTOEIC®L&R400点程度の学力を有する人。【知識・理解】 ②教育課程以外の学内外の活動に積極的に関わられる人。【態度】 ③卒業までに外国人と意思疎通のできる英語力を修得することとともに、工学として必要な情報処理能力および数理的能力を修得することを目標にできる人。【態度・志向性】 ④社会が何を求めているか、常に問題意識を持って考えられる人。【思考・判断】 ⑤本学科で学んだことを生かし、コンピュータ・ソフトウェア技術、情報セキュリティ・モバイルネットワーク技術、ゲーム・コンテンツ関連技術、情報・数学教員のなかから1つ以上の専門分野において社会に貢献する意欲を有する人。【関心・意欲】 [マネジメントサイエンス学科] ①高等学校の課程における主要な教科(数学、理科(物理・化学)、外国語(英語)、国語等)の教科書レベルの基礎知識を持つ人。数学は実用数学技能検定2級程度の学力を有する人。文章を正しく読解し、適切な表現を用いて論理的に記述する基礎的な能力を有する人。英語は実用英語技能検定準2級程度、またはTOEIC®L&R400点程度の学力を有する人。【知識・理解】 ②教育課程以外の学内外の活動に積極的に関わられる人。【態度】 ③卒業までに外国人と意思疎通のできる英語力を修得することとともに、工学として必要な数理的能力を修得することを目標にできる人。【態度・志向性】 ④社会が何を求めているか、常に問題意識を持って考えられる人。【思考・判断】

⑤本学科で学んだことを生かし、社会に貢献する意欲を有する人。【関心・意欲】

[デザインサイエンス学科]

①高等学校の課程における主要な教科（数学、理科（物理・化学）、外国語（英語）、国語等）の教科書レベルの基礎知識を有し、文章を正しく読解できるとともに適切な表現を用いて論理的に説明できる基礎的な能力を有する人。例えば、数学は実用数学技能検定 2 級程度の学力を有する人。英語は実用英語技能検定準 2 級程度、または TOEIC®L&R400 点程度の学力を有する人。【知識・理解】

②研修行事や各種コンテスト・学会などの学内外のさまざまな活動に積極的に関われる人。【態度・志向性】

③解が一つに定まらない社会の課題に対し、さまざまな学問を融合して課題解決に向けた取り組みを継続できる人。【思考・判断】

④グローバルに活動するために、意思疎通ができる外国語（英語）の修得を目指せる人。【汎用的技能】 【態度・志向性】

⑤本学科で学んだことを生かし、社会に貢献する意欲を有する人。【関心・意欲】

[数学教員養成プログラム]

①高等学校の課程における主要な教科（数学、理科（物理・化学）、外国語（英語）、国語等）の教科書レベルの基礎知識を持ち、他者にその内容を説明できる人。数学は実用数学技能検定準 1 級程度の学力を有する人。文章を正しく読解し、適切な表現を用いて論理的に記述する基礎的な能力を有する人。英語は実用英語技能検定準 2 級程度、または TOEIC®L&R400 点程度の学力を有する人。【知識・理解】

②教育課程以外の学内外の活動に積極的に関われる人。【態度】

③卒業までに外国人と意思疎通のできる英語力、数学教員としての数学力ならびに指導力を修得することを目指す人。【態度・志向性】

④社会が何を求めているか、常に問題意識を持って考えられる人。【思考・判断】

⑤本プログラムで学んだことを生かし、教育の分野に貢献する意欲を有する人。【関心・意欲】

〈入試に係る取組・改善状況〉

総合型選抜および学校推薦型選抜においては、受験生に対する評価基準の透明性を高めるため、2021 年度入試より入学試験要項に「評価割合」および「評価の観点」を明記している。

2026 年度入試においてもこれを継続し、評価項目の配分および評価視点を明確に示すことで、工学部が求める学生像の理解促進および適切な志願者の確保を図っている。

出願資格においては、高等学校における学習成績の状況が本学の定める基準に満たない場合であっても、本学が指定する資格・検定試験において一定以上の級またはスコアを取得している場合には出願を認める措置を講じている。

総合型選抜においては、2024 年度入試より「理工系女子総合型入学審査」を新設した。本制度は、工学分野に強い関心と学習意欲を有する女子生徒を対象とし、当該分野における女性人材の育成と多様性の推進を目的としている。

2027 年度入試においても本制度を継続し、志願者層の拡充および分野の特性に応じた人材確保を図る。

一般選抜においては、受験生に対する評価基準の透明性を高めるため、2026 年度入試より入学試験要項に「評価割合」および「評価の観点」を明記している。

一般選抜の「英語」科目については、新学習指導要領への対応として、文部科学省が示す「総合的な英語力評価の推進の考え方」に基づき、2025 年度入試より評価方法を見直した。具体的には、英語 4 技能（読む・聞く・話す・書く）を総合的に評価する観点から、従来の個別試験を廃止し、英語外部試験のスコアまたは大学入学共通テスト「外国語（英語）」の得点を換算して評価に活用している。

2027 年度入試においてもこの方式を継続し、グローバル社会で求められる実践的な英語運用能力の評価を行う。

学部等名 経営学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/business_administration/policy/) (概要) 経済・社会のグローバル化により、すでに海外進出をしている企業だけでなく国内市場を相手にしてきた企業も基本的な経営資源であるヒト・モノ・カネ・情報が国境を越えて移動することを前提にした経営を考える必要がある。世界の各地域には企業経営やビジネス慣行における独自性が残っているが、グローバル化の進展でそれらの標準化が急速に進んでおり、その動きを背景にして世界の経営学教育も日々進歩し標準化が進展している。またグローバル化の波により、競争に耐えられない企業が整理される一方で、新たな成長の牽引役となる企業がイノベーションを生み出していくことが喫緊の課題となっている。 経営学部では国際経営学科に3つのコースを設けて専門性を高めると同時に世界標準で主要科目の学修を進める。グローバル化に主体的に取り組む実践力と情報発信できる英語コミュニケーション力を修得し、ビジネスの開拓者として社会の要請に応え世界に貢献できる人材の養成を目指す。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/business_administration/policy/) (概要) 経営学部では、以下の能力を身に付けている人に学位を授与します。 ①世界標準で専門知識を身に付け、応用する。【知識・理解】 ②多文化・異文化を有する国・地域との理解や交流を通じて、個のアイデンティティを確立する。【知識・理解】 ③グローバルなビジネスシーンで英語によりコミュニケーションを図る。【汎用的技能】 ④さまざまな情報を論理的・数理的に分析し、ビジネスシーンの意思決定に役立てる。【汎用的技能】 ⑤グローバル社会で主体的に取り組むための実践力・発信力を獲得する。【態度・志向性】 ⑥起業家精神とイノベーションを生み出す力を体験的に身に付ける。【態度・志向性】
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/business_administration/policy/) (概要) 経営学部では、以下の方針に基づいて卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と各授業科目の到達目標の関連を明確にしてカリキュラムを設計しています。 ①経営分野で世界標準になっている科目および論理的・数理的に分析する科目を必修科目とし、コース別科目でさらに専門性を高める。【知識・理解】 ②ビジネスで活用できる英語力を獲得するために、4技能を高める ELF (English as a Lingua Franca) 科目と英語で経営学や専門科目を学修する科目を配置して相互に連携を図る。【汎用的技能】 ③世界の文化・社会に関心を持ち、グローバル社会において自らの意見・考えを発信できる科目を設置する。【汎用的技能】 ④産業界や地域との連携により、起業家精神やイノベーションの創出力を養成する科目やゼミナールを設置する。【態度・志向性】

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/business_administration/policy/)

(概要)

経営学部では、以下の方針に基づいて学生を受け入れます。

- ① 実用英語技能検定準2級以上、または TOEIC®L&R400 点以上を取得していることが望ましい。【知識・理解】
- ② 高等学校における「数学Ⅰ・A」の知識があり、実用数学技能検定準2級以上を取得していることが望ましい。【知識・理解】
- ③ 基礎的な読解力および論理的思考力があり、経済・社会における事象について自らの考えを筋道立てて説明できる。【汎用的技能】
- ④ 英語力を強みとしてビジネスに携わり、世界を舞台に活躍する意欲がある。【態度・志向性】

〈入試に係る取組・改善状況〉

総合型選抜および学校推薦型選抜においては、受験生に対する評価基準の透明性を高めるため、2021 年度入試より入学試験要項に「評価割合」および「評価の観点」を明記している。

2026 年度入試においてもこれを継続し、評価項目の配分および評価視点を明確に示すことで、経営学部が求める学生像の理解促進および適切な志願者の確保を図っている。

出願資格においては、高等学校における学習成績の状況が本学の定める基準に満たない場合であっても、本学が指定する資格・検定試験において一定以上の級またはスコアを取得している場合には出願を認める措置を講じている。

一般選抜においては、受験生に対する評価基準の透明性を高めるため、2026 年度入試より入学試験要項に「評価割合」および「評価の観点」を明記している。

一般選抜の「英語」科目については、新学習指導要領への対応として、文部科学省が示す「総合的な英語力評価の推進の考え方」に基づき、2025 年度入試より評価方法を見直した。具体的には、英語 4 技能（読む・聞く・話す・書く）を総合的に評価する観点から、従来の個別試験を廃止し、英語外部試験のスコアまたは大学入学共通テスト「外国語（英語）」の得点を換算して評価に活用している。

2027 年度入試においてもこの方式を継続し、グローバル社会で求められる実践的な英語運用能力の評価を行う。

学部等名 教育学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/education/policy/) (概要) 教育学部は、全人教育の理念に基づき、幅広い知識と理解の深化、社会の変化やニーズに対応できる総合的かつ汎用的な技能や諸能力の体得、平和で豊かな社会の実現に積極的に寄与できる態度・志向性の涵養、そして専攻する分野における幅広く深い専門力、創造的思考力、実践的指導力の醸成を目指す人材養成等の教育研究を行うことで、人間や社会への理解や敬愛、規範意識・倫理観、教育や職務への使命感・責任感、自ら研鑽に努める意欲、実社会におけるリーダーシップ、それらを総合的に活用し自ら課題を解決する能力等を有する教員・保育士ならびに社会人を世に輩出する。 教育学科は、玉川教師訓を踏まえ、主として幼稚園、小・中・高等学校教育に関する専門的知識・技能、実践的な指導力を併せ持つ教員の養成とともに、教育関連分野をはじめとする幅広い分野に貢献できる人材の養成を目指す。 乳幼児発達学科は、玉川教師訓を踏まえ、教育・保育に関する専門的知識・技能、実践的な指導力を併せ持つ教員・保育士の養成とともに、社会のニーズに応えられる子育て支援に関わる人材の養成を目指す。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/education/policy/)
教育学部は、「人材養成等教育研究に係る目的」に向けて、次の学修成果を果たした人に学位を授与する。 〔知識・理解〕 ・ 教育学・保育学における基本的な知識を体系的に理解した上で、教育・保育に関する確かな専門的知識を修得し、さらにそれらの知識を歴史・文化・社会・自然と関連付けることができる。 〔汎用的技能〕 ・ 基礎的な言語操作力、数理分析力を確実に身に付け、確固たる情報リテラシーにより ICT を効果的に活用できる。 ・ 自ら課題を設定し、研究を重ねることにより、教育・保育における諸課題について考察し、解決のための方法を論理的に思考し、実践に向けて主体的、創造的、協働的に取り組むことができる。 〔態度・志向性〕 ・ 教育学・保育学の視点から様々な社会の諸問題に主体的に関心を持ち、多様な人や文化を理解し、共生できる力を身に付けることで社会的責任を持って社会発展に積極的に関与できる。 ・ 教育・保育およびその関連分野におけるヒューマン・サービスの社会的意義と特性を理解し、豊かな人間性と使命感、および倫理観を持って人の成育や福祉に関する分野において協調・協働力、そしてリーダーシップを発揮できる。 ・ 自らを律して行動し、教育学・保育学を基盤として、大学院への進学や生涯を通して学修・研究し続けることで、変化の激しい社会に適応できる。 ・ 我が国ならびに他国における多様な文化を尊重し、グローバル社会において SDGs 達成を視野に入れ、誰一人取り残さない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向け、中心的な役割を果たすことのできる主体性と協調性、チャレンジ精神を持つことができる。 教育学科 (初等教育専攻) 初等教育専攻が重視する学士力には以下の項目があげられ、これらを身に付けることが卒業時における到達目標となる。 〔知識・理解〕 ・ 初等教育に関する確かな専門的知識を修得し、初等教育の諸問題について学術的に研究

し、さらに修得した専門的知識や研究の成果を初等教育の内容となる歴史・文化・社会・自然の各分野と関連付けて活用できる。

〔汎用的技能〕

- ・ 主に幼稚園または小学校の教員として、あるいは初等教育の専門家に求められるコミュニケーションスキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、そして問題解決力を発揮できる。

〔態度・志向性〕

- ・ 初等教育に関する理論と実践に基づいた専門的な知識と技能を総合的に活用して、教育界や広く社会の発展のために貢献することができる。

（社会科教育専攻）

社会科教育専攻が重視する学士力には以下の項目があげられ、これらを身に付けることが卒業時における到達目標となる。

〔知識・理解〕

- ・ 社会との関わりにおいて必要とされる知識を広く体系的に理解した上で、社会科教育に関する確かな専門的知識を修得し、さらにそれらの知識を現実社会の諸課題と関連付けることができる。

〔汎用的技能〕

- ・ 当該専攻における学修の成果を踏まえた確かな言語能力を基盤とするコミュニケーションスキルを確実に身に付けるとともに、ICTを適切かつ効果的に活用できる。

〔態度・志向性〕

- ・ 自己の個性と強みを生かした主体的な生き方を志向し、他者と調和しながら、より良い社会の発展に寄与する態度・姿勢を持つことができる。

（保健体育専攻）

保健体育専攻が重視する学士力には以下の項目があげられ、これらを身に付けることが卒業時における到達目標となる。

〔知識・理解〕

- ・ 保健体育や健康教育に関する基本的な知識を体系的に理解した上で、教育現場において指導ができる中学校、高等学校の教員としての確かな専門的知識を修得し、さらにそれらの知識を健康やスポーツに関する分野の諸課題と関連付けることができる。

〔汎用的技能〕

- ・ 保健体育の教科教育の指導力とともに、教科外活動の指導・支援能力を備え、学校全体の健康・体力づくり等の実践において主体的・創造的・協働的に取り組むことができる。

〔態度・志向性〕

- ・ 国際的な視点で健康とスポーツに関する様々な問題に関心を持ち、産業保健分野や地域社会などにおいてリーダーシップを発揮しながら貢献できる。

（通信教育課程）

通信教育課程が重視する学士力には以下の項目があげられ、これらを身に付けることが卒業時における到達目標となる。

〔知識・理解〕

- ・ 学校教育・社会教育に関する確かな専門的知識を修得し、教育の諸問題について学術的に研究し、さらに修得した専門的知識や研究の成果を社会との関わりにおいて活用することができる。

〔汎用的技能〕

- ・ 幅広い視野と国際感覚、主体的・対話的で深い学びを推進する上で必要とされるコミュニケーションスキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、そして問題解決力を身に付け、学校教育・社会教育関連分野で地域社会に貢献できる。

〔態度・志向性〕

- ・ 学校教育・社会教育に関する理論と実践に基づいた専門的な知識と技能を総合的に活用

することによって、教育の専門家として、より良い社会の発展に寄与する態度・姿勢を持つことができる。

乳幼児発達学科

乳幼児発達学科が重視する学士力には以下の項目があげられ、これらを身に付けることが卒業時における到達目標となる。

〔知識・理解〕

・ 乳幼児から成人に至るまでの人としての育ちについての深い見識を備えた上に、教育・保育に関する専門的知識や技能を修得し、それらの知見を広く生活（歴史・文化・社会・自然など）と関連付けることができる。

〔汎用的技能〕

・ 幼稚園の教員や保育士の役割や教育・保育の社会的意義と特性を理解し、実践に向けて主体的、創造的、協働的に取り組むことができる。

〔態度・志向性〕

・ 教育・保育に関する理論と実践に基づいた専門的な知識と技能を総合的に活用することによって、協調・協働力、そしてリーダーシップを発揮し、教育・保育の発展に貢献するとともに、現代社会の問題解決に積極的に寄与する態度・姿勢を持つことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.tamagawa.ac.jp/education/policy/>）

（概要）

教育学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、教育課程の編成・実施方針を以下に明示する。

全人教育および 12 の教育信条を教育課程の編成の根本に据えつつ、教育職員免許法施行規則第六条の区分、児童福祉法施行規則および指定保育士養成施設指定基準を踏まえて科目を開設し、基礎的・概論的な科目から各論的・実践的な科目、さらにより発展的な内容の科目へと履修を進めていくことができるように科目を配列している。

教育学部が課程認定を受けている教育職員免許状、保育士資格、あるいはその他の資格のうち、原則として 1 つまたは 2 つの免許・資格取得が可能である。そのために、2 年次より学科別、あるいは専攻別に、学生各自の進路・志望に従って教育職員免許状、保育士資格、あるいはその他の資格取得に必要な科目を履修し、所定の単位認定を受けることで免許状・資格を取得する。

同時に、ESD の推進拠点校である本学部の特質を生かし、SDGs 達成を視野に入れ、誰一人取り残さない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向け、多様なキャリアを模索することのできる社会人としての資質・能力を高める機会、社会の急激な変化に対応することのできる人間として普遍的に求められる知識・技能、そして教養を偏ることなく学ぶ機会、さらに、既存の知識体系に固執せず、常に新しい知識を主体的・対話的で深い学びを通して獲得し、知的探究心を高める機会となる科目構成を提供する。

また、卒業後に専門性のさらなる深化の一助となる大学院進学を念頭に置いた科目も併せて提供する。

〔1 年次〕

・ 全学共通の初年次教育であるユニバーシティ・スタンダード科目、玉川教育・FYE 科目、情報リテラシー（EdTech）科目に加えて、基礎的な言語操作力（特に外国語の知識・学力）を育成するための ELF 科目を修得する。

・ 教育・保育の基礎段階となる「教育学概論」および「教職概論」または「保育者論」を必修科目として修得する。

〔1 年次後半から 2 年次〕

・ 教育・保育の理論的基礎となる科目群から、必修選択科目として 2 科目以上を修得する。

・ 教育学部が定める階級の英語・国語・数学各分野の検定・資格を2年次前半までに取得していることを3年次以降の科目履修の基本とする。

・ 「教育インターンシップ」や「キャリア実習」、学校・福祉ボランティアの機会に加えて、「学校体験活動」や「教育・保育体験活動」では、現場に行く機会を重視し、子どもとの関わりや活動から自身の進路・志望を明確化する。

〔3年次、4年次〕

・ 各自の興味・関心の高い分野に関して専門的・学術的に学修・研究を行う「現代教育研究Ⅰ」および「現代教育研究Ⅱ」、「卒業課題研究Ⅰ」および「卒業課題研究Ⅱ」を必修科目として修得する。

・ 「教育インターンシップ」や「キャリア実習」、学校・福祉ボランティアに加えて、「学校体験活動」や「教育・保育体験活動」、ならびに「教育実習」や「保育実習」では、現場に行く機会を重視し、子どもとの関わりや活動から、教員・保育士としての専門性を深める。

・ 企業等でのインターンシップやボランティアに行く機会を重視し、社会人に必要な汎用的な力（社会人基礎力等）を身に付け、自身の進路・志望を決定する。

・ 「教育実習」では、現場で子どもと関わる機会を重視し、学級活動や課外活動を観察し、課題解決的な授業を実践することを通して教員としての専門性を深める。

〔学修成果の評価〕

・ 各科目の評価基準はルーブリックとしてシラバスに示す。卒業研究の評価は学部で定めた共通の評価基準によって行う。

教育学科

（初等教育専攻）

初等教育専攻の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、次のように編成・実施する。

・ 初等教育を学修する上で基盤となる教育学ならびに教職に関する基礎科目群から修得する。

・ 現代社会で必要とされる、幅広い教養、コミュニケーション能力、論理的思考力を培うユニバーシティ・スタンダード科目群から修得する。

・ 幼稚園および小学校教諭一種免許状のいずれか、または幼小連携を視野に入れた両方を取得するため、実習を含む関連科目を選択履修し、所定の単位を効率的かつ効果的に修得することができるように、1年次から4年次にかけて教職関連科目を修得する。

・ 小中一貫教育など学校種を超えた指導ができる能力を身に付けるために、本専攻において取得可能な中学校教諭二種免許状に関する教職関連科目を修得する。

・ 教職界に限らず、初等教育の学修成果を活かして広く現代社会に貢献できる能力を身に付けるために、キャリア教育に関する科目を修得する。

（社会科教育専攻）

社会科教育専攻の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、次のように編成・実施する。

・ 社会科系領域に関する確かな専門的知識を習得するとともに、多面的・多角的な学びから教養を広げ、現実社会の諸課題を理解する。

・ 社会科系領域に関する知識および技能の学び方を理解し、教科としての見方・考え方や、確かな言語能力を基盤とする汎用的技能を獲得する。

・ 中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（地理歴史、公民）の取得を目指し、社会科系領域について免許法施行規則に定める教科及び教科の指導法に関する所定の科目を効率的かつ効果的に修得する。

・ 小中・中高一貫教育などに対応できるよう、学校種を超えて指導できる能力を備えるために小学校教諭二種免許関連科目の履修を可能とし、免許法施行規則に定める教科及び教科の指導法に関する所定の科目を効率的かつ効果的に修得する。

・ 学校や地域での諸活動の機会を重視し、他分野の教員や専門家等と連携・協働する力を

培うとともに、現場での子どもとの関わりや活動から自身の進路・志望を明確化する。

（保健体育専攻）

保健体育専攻の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、次のように編成・実施する。

- ・ 中学校および高等学校教諭一種免許状（保健体育）の取得を目指し、保健体育科教員としての知識・技能、指導技術を育成するため、実習を含む関連科目を選択履修し、所定の単位を効率的かつ効果的に修得することができるよう、1年次から4年次にかけて科目を修得する。
- ・ 小中・中高一貫教育などに対応できるよう、学校種を超えて指導できる能力を備えるために、小学校教諭二種免許関連科目の履修を可能にする。
- ・ 保健体育領域について各学校段階に即した内容の科目を修得する。
- ・ 1年次には本学の伝統であるスキー教育に関して、「体育実技（スキー）」を配列し、その他の体育実技科目を3年次までに修得する。
- ・ 本学の伝統である体育祭に1年次に参加し、2・3年次には運営、4年次には体操指導を行うことで、教育現場における体育祭等の行事教育を中心的に管理運営できる能力を身に付ける。

（通信教育課程）

通信教育課程は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、次のように編成・実施する。なお、既に教育職員免許状あるいはその他の資格を取得するための基礎資格（学歴）を充足している人に対しては、免許状・資格を取得するための科目を主に修得させる教育課程を編成・実施する。

- ・ 初等教育を学修する上で基盤となる教育学ならびに教職に関する基礎科目群を修得する。
- ・ 現代社会で必要とされる、幅広い教養、コミュニケーション能力、論理的思考力を培うユニバーシティ・スタンダード科目群を修得する。
- ・ 通信教育課程として課程認定を受けている複数の教育職員免許状あるいはその他の資格を取得するため、学生各自の進路・志望に従って所定の単位を修得するが、いずれも基礎的・概論的な科目から各論的・実践的な科目、さらにより発展的な内容の科目へと履修を進める。
- ・ 教育職員免許状取得希望者には、教員としての知識・技能、指導技術を育成するため、実習を含む関連科目を選択履修し、所定の単位を効率的かつ効果的に修得することができるよう、1年次から4年次にかけて科目を修得する。

乳幼児発達学科

乳幼児発達学科の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、次のように編成・実施する。

- ・ 教育・保育を学修する上で基盤となる科目ならびに教職に関する基礎科目を修得する。
- ・ 現代社会で必要とされる、幅広い教養、コミュニケーション能力、論理的思考力を培うユニバーシティ・スタンダード科目を修得する。
- ・ 幼稚園の教員、保育士の養成を目指し、1年次から4年次にかけて段階的に「教育・保育体験活動」や「教育実習」、「保育実習」に取り組み、実践的な学びと理論的な学びを交差させて履修することで、学修内容の相乗効果が促されるよう配列された科目を修得する。
- ・ 教育・保育の歴史や、制度、方法など新たな国の動向や課題を理解し、幼稚園の教員や保育士に必要な教育・保育全般の知識・技能が修得されるように科目を配列し、免許状および資格の取得を目指す。
- ・ 教育・保育に対する全般的な知識・技能の修得を基盤とし、さらに、幼稚園の教員や保育士の専門性となる、人の育ちに関わる職種、子育て支援、特別な支援を必要とする子どもの教育・保育などの分野での社会貢献を促す援助・支援のあり方に関する科目を修得す

る。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.tamagawa.ac.jp/education/policy/>)

(概要)

教育学部のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づき、入学者受け入れ方針を以下に明示する。

① 望む学生像について

- ・ 本学創立の理念である全人教育の理念について興味・関心を持つ人
- ・ 人間としての基本的な規範意識（モラル）を有する人
- ・ 人間の尊厳を大切に、教育・保育について関心を持ち、それらの職への強い使命感や志のある人
- ・ 子どもとの積極的な関わりから、教育・保育への理解を深めることができる人
- ・ 専門的知識や教育的技術を獲得するために主体的、自発的に学ぶことができる人
- ・ 芸術活動などを通して育まれる創造性や環境に対する感性を磨くことができる人
- ・ 豊かな教養と国際感覚を身に付け、社会の発展に積極的に貢献することができる人

② 高等学校における学習について

- ・ 基礎的学力として、高等学校卒業相当の英語・国語・数学の能力を身に付けていることを、成績、入学試験、あるいは外部検定試験（詳細は以下参照）を取得していることで示すことができる人

[外部検定で取得が望ましい等級]

英語関連検定：実用英語技能検定準2級(S-CBT、CBTを含む)以上のCSEスコア1728点以上（可否は問わず2015年4月以降のもの）、TOEIC®L&RもしくはTOEIC®L&R IP400点以上、GTEC（4技能版）690点以上、GTEC（3技能版）410点以上（オフィシャルスコアに限る）、GTEC for STUDENTS（L&R&W）410点以上（オフィシャルスコアに限る）、GTEC CBT 690点以上、CASEC オフィシャルスコア500点以上

国語関連検定：日本語検定3級、日本漢字能力検定準2級

数学関連検定：実用数学技能検定準2級、ビジネス数検2級

- ・ 幅広い教養（例えばSTEAM教育）として、特定の教科に偏らず、高等学校で学ぶ各教科の基礎的内容を十分に理解している人
- ・ 地理歴史、公民、理科、保健体育、芸術、家庭、情報および環境、平和、人権などESDの対象となる分野において、広く基礎的な知識を持っていることに加え、いくつかの分野については深い興味・関心を持ち、さらに得意な分野も持っている人

教育学科

(初等教育専攻)

① 望む学生像について

- ・ 子どもの発達と教育に関心を持ち、教職への強い志や使命感を持つ人
- ・ 国際感覚を持ち、初等教育をはじめ多方面において専門性の高い学修を志す人
- ・ 変化の激しいこれからの社会を生き抜くための知識と態度、コミュニケーション能力を身に付け、自分の個性を生かして、主に幼稚園または小学校の教員として、あるいは初等教育の専門家として教育関連の分野や広く社会に貢献する意欲のある人

② 高等学校における学習について

- ・ 初等教育を学修する上で基盤となる幅広い教養を担保するものとして、高等学校における各教科に関する基礎的学力を有する人
- ・ 初等教育を学修する上で基盤となるいくつかの分野に関しては深い興味・関心を持ち、さらに特定の得意分野を有する人

(社会科教育専攻)

① 望む学生像について

- ・ 高い目的意識を持ち、当該専攻で学んでいく強い意志と、これを適切に表現・発信するための表現力（情報収集力を基盤とした言語力、文章力、発表力、コミュニケーション力）を持つ人

- ・ 中学校の社会科教員、または社会科に強い小学校の教員、あるいは中学校との連携を踏まえた高等学校の地理歴史科・公民科教員を目指し、主体的に努力していく覚悟と豊かな人間性を持つ人

- ・ グローバル社会を見据え、公務員や一般企業での活躍を目指し、教育分野の学びを活用し、広く社会に貢献しようとする意欲がある人

- ・ 中学校の社会科教員または小中・中高一貫教育に対応できる教員としての資質・能力の向上に向けて、大学院進学や多様なキャリアを目指し、主体的に努力していく覚悟と探究心を持つ人

② 高等学校における学習について

- ・ 地理、歴史、文化、社会、倫理、政治、経済といった分野において、広く基礎的な知識と能力を有する人

- ・ 地理、歴史、文化、社会、倫理、政治、経済といった分野のうち、いくつかの分野については深い興味・関心を持ち、さらに得意な分野も持っている人

(保健体育専攻)

① 望む学生像について

- ・ 健康、スポーツに高い関心を持ち、教職への強い志や使命感を持つ人

- ・ 健康教育の専門家を目指し、そのために幅広く学び、成長する意欲のある人

- ・ 自らの健康、体力を高めることに強い意欲を持ち、その実践に積極的に取り組める人

② 高等学校における学習について

- ・ 得意なスポーツ分野を持っている人

- ・ 保健体育を専攻するに相応しい基礎体力（文部科学省「体力・運動能力調査」A判定レベル相当）が備わっている人

(通信教育課程)

① 望む学生像について

- ・ 学校教育・社会教育・生涯学習に関心を持ち、教職への強い志や使命感を持つ人

- ・ 国際感覚を持ち、初等教育をはじめ多方面において専門性の高い学修を志す人

- ・ 変化の激しいこれからの社会を生き抜くための知識と態度、コミュニケーション能力を身に付け、学校教育・社会教育の専門家として教育関連の分野や広く社会で貢献しようとする意欲のある人

② 入学前における学習について

通信教育課程では、学歴の多様性に対応し、また生涯学習に向けての出発点であることを踏まえ、特に教科、科目を定めるものではないが、教員や社会人の育成にあたり幅広い教養と基礎学力・諸経験を身に付けていることを求めている。このため、入学するまでに教育学に関する基礎的な学習を満遍なく行っておくことが望まれる。

乳幼児発達学科

① 望む学生像について

- ・ 人間の発達や育ちに興味・関心を持ち、教職・保育職への強い志や使命感を持つ人

- ・ 理論と実践の両面から教育・保育・児童福祉について理解を深めることができる人

- ・ 教員・保育士などを目指し、主体的、自発的に学ぶことができる人

② 高等学校における学習について

- ・ 乳幼児の教育・保育、児童期の福祉を学修する上で基盤となる幅広い教養を担保するものとして、高等学校における各教科に関する基礎的学力を有する人

・ 乳幼児の教育・保育、児童期の福祉を学修する上で基盤となるいくつかの分野に関しては、深い興味・関心を持ち、さらに特定の得意分野を有する人

〈入試に係る取組・改善状況〉

総合型選抜および学校推薦型選抜においては、受験生に対する評価基準の透明性を高めるため、2021 年度入試より入学試験要項に「評価割合」および「評価の観点」を明記している。

2026 年度入試においてもこれを継続し、評価項目の配分および評価視点を明確に示すことで、教育学部が求める学生像の理解促進および適切な志願者の確保を図っている。

出願資格においては、高等学校における学習成績の状況が本学の定める基準に満たない場合であっても、本学が指定する資格・検定試験において一定以上の級またはスコアを取得している場合には出願を認める措置を講じている。

一般選抜においては、受験生に対する評価基準の透明性を高めるため、2026 年度入試より入学試験要項に「評価割合」および「評価の観点」を明記している。

一般選抜の「英語」科目については、新学習指導要領への対応として、文部科学省が示す「総合的な英語力評価の推進の考え方」に基づき、2025 年度入試より評価方法を見直した。具体的には、英語 4 技能（読む・聞く・話す・書く）を総合的に評価する観点から、従来の個別試験を廃止し、英語外部試験のスコアまたは大学入学共通テスト「外国語（英語）」の得点を換算して評価に活用している。

2027 年度入試においてもこの方式を継続し、グローバル社会で求められる実践的な英語運用能力の評価を行う。

学部等名 芸術学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_arts/policy/) (概要) 芸術学部は、本学創立の理念である全人教育のもと、全人的な人格陶冶と総合大学における芸術学部の特色を生かした芸術教育を目指している。芸術の各専門領域における理論と技能を体系的・実践的に学び、創造力・論理的思考力・マネジメント能力・協働力を培い、実行力と人間力を兼ね備えた「芸術による社会貢献」を推進しうる人材の養成を目的とする。 音楽学科は、音楽の体系的理解に基づき、現代社会における上演芸術および音楽教育の役割を学修し、音楽における総合実践力、コミュニケーション力およびマネジメント力を有して社会に貢献できる人材を養成する。 アート・デザイン学科は、予測困難な未来において、美術、デザインおよびメディアアートの役割を理解し、多文化・異分野と関連させ、共に新しい発想や芸術表現に挑戦し、問題を解決するプロセスに参画できる人材を養成する。 演劇・舞踊学科は、上演芸術の理論や歴史および創造プロセスを多角的に学修し、上演芸術の価値および社会における使命や役割について説くことができ、創造の現場および社会に貢献する人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_arts/policy/) 芸術学部では、所定の単位を修得し、次の能力を有すると認められた学生に卒業を認定し、学位を授与します。 ①芸術に関する幅広い素養を持ち、得意とする芸術分野の専門的な知識・技能を身に付け、自然・社会・多文化・異分野と関連させながら理解することができる。 ②多様化する社会の諸問題に対し、認識、分析、解決するための言語力・論理的思考力・マネジメント力・コミュニケーション力・表現力を身に付けている。 ③社会人としての倫理観と責任感を持ち、生涯にわたり自ら考え、積極的に学び続ける生涯学習力を身に付けている。 ④社会や時代のニーズに対応する意識を持ち、国際的な視野を持ち、社会の発展のために積極的に関与することができる。 ⑤相互の立場や特性を尊重しながら、主体的、自発的にリーダーシップを発揮し、チームワークを意識することができる。 〔音楽学科〕 音楽学科では、以下に示す能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に学位を授与する。 ①音楽に関する専門的な技術および知識を身に付けるとともに、自然・社会・多文化・異分野と関連させながら理解することができる。 ②音楽の専門的な知識・技能をもとに、多様化する社会の諸問題に対し、解決しようとする意志を持ち、認識、分析、解決するための言語力、論理的思考力、マネジメント力、コミュニケーション力、および表現力を身に付けている。 ③音楽の専門的な知識・技能を生かし、社会人としての倫理観と責任感を持ち、生涯にわたり積極的に学び続ける生涯学習力を身に付けている。 ④進化する社会の音楽活動に携わり、国際的な視野を持ち、他者と価値観、倫理観を共有し、音楽を通して社会に貢献する意識を持つことができる。 〔アート・デザイン学科〕 ①美術、デザインおよびメディアアートの専門的な知識・技能を身に付けるとともに、自

然、社会、多文化、異分野と関連させながら理解することができる。

②美術、デザインおよびメディアアートの専門的な知識・技能をもとに、多様化する社会の諸問題に対し、解決をしようとする意思を持ち、認識、分析、解決するための言語力、論理的思考力、マネジメント力、コミュニケーション力、および表現力を身に付けている。

③美術、デザインおよびメディアアートの専門的な知識・技能を生かし、社会人としての倫理観と責任感を持ち、生涯にわたり自ら考え、積極的に社会や時代のニーズに対応する創造的な表現や解決法をもってこれからの社会に貢献する意識を持つことができる。文化芸術による社会の活性化や地域創生、国際交流に主体的に取り組み、相互の立場や特性を尊重しながら、主体的、自発的にリーダーシップを発揮し、チームワークを意識することができる。

〔演劇・舞踊学科〕

- ①上演芸術に関する専門的な知識・技能を身に付けることで、上演芸術を自然や社会と、さらには異文化・異分野などの多様な価値観と関連させながら理解することができる。
- ②上演芸術の専門的な知識・技能をもとに、多様化する社会の諸問題を認識、分析、解決するための意志を持ち、またそのための言語力・論理的思考力・マネジメント力・コミュニケーション力・表現力を身に付けている。
- ③上演芸術を理解し、創作を通じて他者と協働することで、相互の立場や特性を尊重しながら集団における統率力や責任感や倫理観を身に付けている。また、社会に貢献する意識を持つことができる。
- ④上演芸術の専門的な知識・技能を生かし、生涯にわたり積極的に学び続ける生涯学習力を身に付けている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_arts/policy/)

芸術学部では人材養成等教育研究に係る目的の実現並びに卒業認定・学位授与の方針に挙げた知識・技能の修得、態度・志向の育成を目指し、以下の教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）に基づきカリキュラムを編成しています。

- ①科目番号（ナンバリング）によって履修順序を示し、学年進行によって基礎的知識・技能から専門的知識・技能の修得へと体系的に進むよう配置することで理論と実践の往還を目指す。
- ②芸術分野の理論や実技の基盤をつくる導入科目として「芸術概論」を開設し、学部共通の必修科目とする。
- ③芸術に関する知識を幅広く修得するとともに、多文化・異文化に関する知識、文化、社会、自然に関する理解を深め、芸術分野との関連を理解するために、学科専門科目と並行してユニバーシティ・スタンダード科目の諸科目を学べるよう配置する。

芸術学部のカリキュラム・ポリシーに基づき、各学科においてカリキュラム・ポリシーを設定している。

〔音楽学科〕

- ①音楽に関する基礎全般を概観し、楽譜に関する知識や、その知識を踏まえたベーシックな理論、さらに楽曲演奏の基礎となる音楽の3要素（リズム、メロディー、ハーモニー）について学修するために、1年次の必修科目として「音楽理論」や「ソルフェージュⅠ」を配置する。
- ②自己の将来目標にあわせて専門的な学びを深めるため、1年次より「音楽教育コース」、「演奏・創作コース」、「ミュージカルコース」の3つのコースを設定し、コースごとに必要な専門的知識・技能を修得するための科目を開設する。
- ③音楽分野の専門的な知識・技能を修得するだけでなく、専門的な知識・技能の学修を通して課題を認識・分析する力や、言語力、論理的思考力、マネジメント力、コミュニケーション力を身に付けるために、他者と協働しながら主体的に取り組むプロジェクト型および演習形式の科目を配置する。

④4年間の集大成として成果を発表する科目として「卒業演奏・卒業創作」、「卒業創作・研究」、「卒業論文」を配置する。

〔アート・デザイン学科〕

①1年次から「メディア表現コース」および「美術教育コース」という履修上の2つのコースを設け、各自の専門性を深めていけるよう科目を配置する。学べる分野としては造形分野（デザイン、CG・映像、立体・空間表現、絵画、工芸等）、音楽分野（コンピュータ音楽、作曲、音響合成、音響処理等）、美術教育分野（美術科指導法、鑑賞教育等）の3分野がある。

②100番台科目にアート・デザイン領域の導入として、各専門分野の基礎知識および技術を学ぶ選択科目を設置する。

200番台科目には、学生各々の興味・関心や将来への方向性により専門分野を発展的に学ぶことができる選択科目を配置する。

300番台には、少人数で専門的かつ高度な内容を学ぶことで学修をより深めていくために、必修科目として「アート・デザイン研究」を置く。

400番台には、学修の成果を卒業制作や卒業研究としてまとめるため、必修科目として「アート・デザイン卒業研究」や選択科目「エキシビション」を置く。学内外での発表を通して、閲覧者・観客を意識した社会性のある内容を追求しながら、生涯にわたり自ら考え、積極的に社会や時代のニーズに対応する創造的な表現力や解決法を身に付けさせる。

③芸術の社会貢献を実践的に学ぶことを目的に、企業・自治体など学外機関や地域との教育連携を中心とした選択科目「共創芸術プロジェクト」を設置する。社会に有用な課題設定とグループワークでの取り組みにより、社会・地域に貢献する意味の理解や、主体的、自発的にリーダーシップやマネジメント力を発揮してチームワークを形成する力を獲得する。

④英語によって専門分野を学ぶ選択科目「Art and Sound Techniques」、「Art and Sound Design」により語学力を向上させる。さらに国外との共同授業の実施や留学によって、国際交流や異文化の理解へとつなげていく。

⑤教職科目では、1年次より教職基礎科目および専門科目を設定し教職の基礎を身に付ける。1年次の後半の参観実習、2年次以降の介護等体験、教育インターンシップ等での教育現場の実際を体験しながら、知識・技術・技能の習得を関連付け、教員としての資質・能力を向上させる。

〔演劇・舞踊学科〕

以下に示す方針に基づいて教育課程を構築している。

①上演芸術に関する分野の体系化と構造化および順次性を明確にする。

②知識体系に関する基礎教育を重視し、上演芸術を取り巻くあらゆる分野を横断できる教育課程を編成する。

③生涯を通じた持続的な自己教育力とリーダーシップを育成する。

④豊かな人間性と公共性や倫理性を育成する。

⑤諸団体や地域との連携・協働を強化し、社会の改善に積極的に関与できる力を育成する。

⑥日本語および外国語の「読む、書く、聞く、話す」の4技能の発展を重視する。

この編成方針をもとに、具体的に以下の通り教育課程を構築する。

①学修の中核をなす学科科目は、1年次に上演芸術を学ぶ上での基礎的な知識を会得した上で、2年次にコースを選択し、3つの専門に分かれて学修できるように、基礎科目から専門科目へと体系的に配置する。応用力を補完するために、選択科目を置く。

②2年次（200番台科目）には、上演芸術に関する概論および理論基礎科目を1年次に引き続き学修できるよう科目を配置する。また、「身体表現」「舞台創造」「芸術応用」の各コースに分かれた選択必修科目を開設し、コース別専門科目での学修の基礎となる科目を配置する。

③3年次（300番台科目）の核となる科目は、コース別の科目群として配置する。これらの科目は、より専門性の高い学修を行うことで卒業後の進路を見据えて一貫した履修ができるよう開設する。

④4年次（400番台科目）においては、上演芸術に関する教育・研究のまとめとして、プロジェクト型の選択科目、実践形式の必修科目を配置し、ディプロマ・ポリシーの達成を図る。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_arts/policy/）

（概要）

芸術学部では、全人教育の理念のもと、芸術分野の専門的知識・技能の修得を通じて、創造力・論理的思考力・マネジメント能力・協働力を培い、実行力と人間力を兼ね備えた「芸術による社会貢献」を推進しうる人材を養成することを目的としています。そのために以下のような要件を備えた人材が入学することを期待しています。

〔音楽学科〕

音楽学科では、音楽の体系的理解に基づき、現代社会における上演芸術および音楽教育の役割を学修し、音楽における総合的実践力、コミュニケーション力およびマネジメント力を有して社会に貢献する人材を養成することを目的としている。そのために以下のとおり入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を定める。

- ①高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語および芸術などの内容を理解し、高等学校卒業相当の知識と技能を有している。
- ②物事を多面的かつ論理的に考察しようとする態度や、「読む、書く、聞く、話す」の基礎的な4技能を身に付けている。
- ③人間、自然、文化、産業、国際などの諸問題に関心を持ち、積極的に社会に貢献しようとする意欲がある。
- ④多文化、異文化の存在を認め、自分の考えを他者に伝えようとする意欲と態度があるとともに、自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。
- ⑤他者と積極的にかかわり、対話や自らの表現を通して相互理解に努めようとする態度と、入学後に必要となる芸術表現に関する基礎的な技能を有している。
- ⑥高等学校教育の内容・水準に配慮し、関連する日本語に関する検定、外国語に関する検定（実用英語技能検定準2級以上、TOEIC®L&R400点以上等）、コンピュータ操作に関する資格、数量的なスキルに関する資格やスコア、古典派のソナタ形式を演奏できるピアノ技術を有していることが望ましい。

〔アート・デザイン学科〕

アート・デザイン学科では、予測困難な未来において、美術・デザインおよびメディアアートの役割を理解し、多文化・異分野と関連させ、共に新しい発想や芸術表現に挑戦し、問題を解決するプロセスに参画できる人材を養成することを目指している。そのために、以下のとおりアドミッション・ポリシーを定める。

- ①高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語および芸術などの内容を理解し、高等学校卒業相当の知識と技能を有している。
- ②物事を多面的かつ論理的に考察しようとする態度や、「読む、書く、聞く、話す」の基礎的な4技能を身に付けている。
- ③人間、自然、文化、産業、国際などの諸問題に関心を持ち、積極的に社会に貢献しようとする意欲がある。
- ④多文化、異文化の存在を認め、自分の考えを他者に伝えようとする意欲と態度があるとともに、自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。
- ⑤他者と積極的にかかわり、対話や自らの表現を通して相互理解に努めようとする態度と、入学後に必要となる芸術表現に関する基礎的な技能を有している。
- ⑥高等学校教育の内容・水準に配慮し、関連する日本語に関する検定、外国語に関する検定（実用英語技能検定準2級以上、TOEIC®L&R400点以上等）、コンピュータ操作に関する

資格、数量的なスキルに関する資格やスコアなどを有していることが望ましい。

〔演劇・舞踊学科〕

演劇・舞踊学科では未来の社会を創る芸術力を育成し、芸術を通じて社会貢献できる人材を養成することを目指している。そのために、以下のとおりアドミッション・ポリシーを定める。

- ①高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語および芸術などの内容を理解し、高等学校卒業相当の知識と技能を有している。
- ②物事を多面的かつ論理的に考察しようとする態度や、「読む、書く、聞く、話す」の基礎的な4技能を身に付けている。
- ③人間、自然、文化、産業、国際などの諸問題に関心を持ち、積極的に社会に貢献しようとする意欲がある。
- ④多文化、異文化の存在を認め、自分の考えを他者に伝えようとする意欲と態度があるとともに、自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。
- ⑤他者と積極的にかかわり、対話や自らの表現を通して相互理解に努めようとする態度と、入学後に必要となる芸術表現に関する基礎的な技能を有している。
- ⑥高等学校教育の内容・水準に配慮し、関連する日本語に関する検定、外国語に関する検定（実用英語技能検定準2級以上、TOEIC®L&R400点以上等）、コンピュータ操作に関する資格、数量的なスキルに関する資格やスコアなどを有していることが望ましい。

〈入試に係る取組・改善状況〉

総合型選抜および学校推薦型選抜においては、受験生に対する評価基準の透明性を高めるため、2021年度入試より入学試験要項に「評価割合」および「評価の観点」を明記している。

2026年度入試においてもこれを継続し、評価項目の配分および評価視点を明確に示すことで、芸術学部が求める学生像の理解促進および適切な志願者の確保を図っている。

出願資格においては、高等学校における学習成績の状況が本学の定める基準に満たない場合であっても、本学が指定する資格・検定試験において一定以上の級またはスコアを取得している場合には出願を認める措置を講じている。

一般選抜においては、受験生に対する評価基準の透明性を高めるため、2026年度入試より入学試験要項に「評価割合」および「評価の観点」を明記している。

一般選抜の実技適性試験課題において、2023年度入試より「作品審査」を設け、受験生自身が作成した作品を持参させてプレゼンテーション並びに質疑応答を行っている。また、「英語」科目については、新学習指導要領への対応として、文部科学省が示す「総合的な英語力評価の推進の考え方」に基づき、2025年度入試より評価方法を見直した。

具体的には、英語4技能（読む・聞く・話す・書く）を総合的に評価する観点から、従来の個別試験を廃止し、英語外部試験のスコアまたは大学入学共通テスト「外国語（英語）」の得点を換算して評価に活用している。

2027年度入試においてもこの方式を継続し、グローバル社会で求められる実践的な英語運用能力の評価を行う。

学部等名	リベラルアーツ学部
教育研究上の目的	(公表方法： https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_lbarts/policy/)
(概要)	価値観が多様化・複雑化した現代社会では、時代の変化に柔軟に対応しながら複眼的な視野で物事を公平かつ客観的に判断できる人材が求められています。そこでリベラルアーツ学部では、幅広く深い教養および総合的な判断力を養い、豊かな人間性を涵養するための教育を推進します。将来のキャリア形成を意識しながら、「学際的教養教育」を進めていく中で、「知の基盤」の充実を図ることを目指し、机上の学びを礎石としつつ、学際的教養を実践ないし応用する機会として、実験・実習・調査・フィールドワーク・インターンシップなどの体験型学修を積極的に取り入れ、地域や企業との連携を図ることで、知性と実践力を兼ね備えている調和のとれたコミュニケーション力を持った人物を育成していきます。 具体的には、次のような学生を育てていくことを心がけます。 ①現代社会で起こる多岐にわたる問題に対して、複眼的視野や確かな判断力を持ち、解決する能力を身に付け、積極的かつ協力的にかかわっていく中で、リーダーシップを発揮できる人。 ②学術の基礎・基本を土台とした専門性を身に付け、課題を解決するプロジェクトを実践し推進できる人。 ③英語力・日本語力・デジタルコミュニケーション力を身に付け、わが国の社会あるいは文化について、様々な形で世界に発信できる人。 ④生涯教育を可能にする「ラーニング・コミュニティ」を意識し、生涯にわたる学びを実践し、得られた知識を社会に還元する意欲を持ち、かつそれを実行できる人。
卒業又は修了の認定に関する方針	(公表方法： https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_lbarts/policy/)
(概要)	リベラルアーツ学部では、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。 ①ユニバーシティ・スタンダード科目を中心に幅広い履修を通して基礎的な学修力を高め、批判的な思考を通して問題を探究する能力を身に付け、自身の将来について明確な展望を持つ。 ②自身が選択した2つのフィールドにおける体系的な学修を軸に、4年間の講義・演習・実習や『リベラルアーツプロジェクト』を通して、自ら課題を設定し、分析し、解決する力を身に付ける。 ③他フィールドや他学部の科目履修を含めた分野横断的な学修により、複眼的な視野を高め、多様な価値観を認識し、自らの価値観を形成し、自分の考えを相手に理解してもらえるコミュニケーション力を身に付ける。 ④現代に生きる地球市民のひとりとして、多様な人や文化と共生でき、課題解決のため、知識を現場に活用する力、行動する力を身に付ける。 ☐各フィールドの科目履修において身に付ける力 ■Human フィールド 人間探究を通して現代社会で生きる力を養う。人間の根本的な哲学の問題や、人間の成長や発達・行動の仕組みについて、批判的・論理的・実証的に検討をおこないながら、過去、現在、未来の社会や人間のあり方について思考できる。 ①人間の心や行動の仕組みや人間が創出してきた思想を多面的に理解し、人間という存在についての総体的な知識を有している。 ②獲得した知識を基に、社会における課題を見つけ、その解決策を提案できる思考力を有

している。

■Society フィールド

社会現象・社会問題に対して、グローバル化、多様性、持続可能性、批判的思考という観点からアプローチできると同時に、社会理論と実証的データに基づいて対象を理解・分析し、その知見の活用と実践を通じて具体的な問題解決に貢献できる。

①グローバル化、多様性、持続可能性の観点から社会現象・社会問題を検討する講義科目を履修することにより、批判的思考を身に付けているとともに、演習・実習科目を通じて具体的な社会現象・社会問題とかかわることにより、問題解決能力を獲得している。

②社会調査の方法論を実践的に学修することにより、社会現象・社会問題を実証的に研究する力を身に付けているとともに、社会理論を幅広く学修することにより、実証的データの分析・解釈のための土台となる力を獲得している。

■Culture フィールド

グローバル化した世界の中で、様々な地域と日本、それぞれの文化と宗教について、客観的かつ複眼的な視点から理解することに努める中で、批判的思考力を培い社会の諸問題の解決に貢献するとともに、自らの意見を発信して社会とかかわっていくことができる。

①文化を形成する諸要素、特に人間の生活や、宗教、文学、言語について、それらを分野横断的に学ぶ中で多様性について理解し、複眼的な視点と批判的思考力を有している。

②『リベラルアーツセミナー』やオフキャンパス・スタディーズでの具体的、実践的な学修を通じて、現代社会における様々な諸問題をグローバルな視点から眺めて解決していくための思考と実践の方法を身に付けている。

■STEAM フィールド

情報技術を礎に、従来の学問分野を超えた学際的な視野や見識を獲得し、学術と芸術を融合した斬新な視点から、めまぐるしく変容する現代社会の現象や課題と向き合い、その解決の糸口を切り拓くために必要な、高い倫理性を身に付け、創造的実行力を発揮することができる。

①情報リテラシーを身に付け、社会現象や社会問題を可視化するための科学技術および学術的手法を学び、柔軟な発想力を身に付けるための創造的実践をおこなうことで、課題と向き合うための基礎となる知力を身に付けている。

②現代社会の顕在的ないし潜在的課題を発見し、それらを解決するために様々な学問的視点から検討し、フロンランナーとして独創的なアイデアを構築し、そのアイデアを実践する力を持つ。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_lbarts/policy/)
(概要) リベラルアーツ学部では、構想力・実践力・推進力の育成に重点をおいて、カリキュラムを編成しています。1 年次では日本語・英語のコミュニケーション力、情報処理スキル、プレゼンテーションスキルなどの育成に力点をおき、2 年次では専門的研究の科目を多様に開講し、様々な学びのスタイルを通して自らの課題に取り組んでいきます。3 年次以降は『リベラルアーツセミナー』で研究を推進する力を培い、問題の発見、課題の解決、思考力を専攻科目の履修を通して養い、その成果を広く社会に発表、提供できる教育課程の編成としています。 ①語学力を高めるために、1、2 年次では ELF 科目を、3 年次以降では指定された範囲の英語科目を履修する。 ②1 年次では、『リベラルアーツ総合研究 A・B』により、自身が選択するフィールドの概要を理解する。また、英語・日本語による論理的思考力、情報リテラシーを含む分析力などの基礎力育成に力点をおき、各フィールドの入門科目を幅広く学ぶ。 ③2 年次では自身が学修を希望するフィールドの科目について履修プログラムに示された科目を中心に学び、2 つのフィールドの選択を確定する。同時に、他のフィールドの科目の学修もおこない、幅広い学際的分野の学びを心がけて、分野横断的で複眼的な視野を養う。 ④2 年次以降、『インターンシップ』等のオフキャンパス・スタディーズへの参加を推奨する。大学において学修した内容を社会で実際に活かし、「大学での学びを社会で実践し深める」機会とする。また、それを通じて自己のキャリア・ビジョンの形成、および自身を客観的に眺めることのできる能力を育成する。 ⑤3 年次以降、自身の選択したフィールドの学びを深めるための専門科目とともに、少人数で実施される『リベラルアーツセミナー』において、それぞれの学問分野における学修・研究方法を深く学び、自身の課題を解決する能力を高めていく。 ⑥卒業年次においては、学修成果を社会に資するために、『リベラルアーツプロジェクト』に取り組み、自身のフィールドにおいて身に付けた様々な力を活用し、研究成果を論文・作品制作等としてまとめ、発表する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_lbarts/policy/)
(概要) リベラルアーツ学部では、異なる意見や文化を持つ人と協働できる幅広い教養を有した人材、特にグローバル化した世界と現代日本の姿を複眼的な視野から理解し、自ら問題を設定し、その問題解決に貢献できる高い思考力と論理力を持った学生の育成を目的としています。 入学にあたって ①幅広く様々な事象に対して積極的に関心を持っていること。(態度・志向性) ②高等学校で履修した教科のうち、特に国語、外国語、数学、地理歴史・公民、情報の教科書レベルの基礎知識を持っていること。(知識・理解) ③各種資格・検定試験に挑戦し、高等学校卒業程度の水準を示す等級を取得していること。(汎用的技能) 例：実用英語技能検定準 2 級、TOEIC®L&R400 点程度、日本語検定 3 級、日本漢字能力検定準 2 級、実用数学技能検定準 2 級 ④リベラルアーツ学部卒業後の将来計画を持ち、自ら学修計画を立て、進んで学ぶ意欲を持っていること。(態度・志向性) ⑤高等学校内外においての諸活動(部活動、ボランティア活動、海外活動、生徒会活動、各種大会、コンクールへの参加など)に積極的に関わっていること。(態度・志向性) ⑥生涯にわたり学び続ける姿勢を備え、社会にその知識を還元・推進する意欲を持っていること。(態度・志向性)

〈入試に係る取組・改善状況〉

総合型選抜および学校推薦型選抜においては、受験生に対する評価基準の透明性を高めるため、2021 年度入試より入学試験要項に「評価割合」および「評価の観点」を明記している。

2026 年度入試においてもこれを継続し、評価項目の配分および評価視点を明確に示すことで、リベラルアーツ学部が求める学生像の理解促進および適切な志願者の確保を図っている。

出願資格においては、高等学校における学習成績の状況が本学の定める基準に満たない場合であっても、本学が指定する資格・検定試験において一定以上の級またはスコアを取得している場合には出願を認める措置を講じている。

一般選抜においては、受験生に対する評価基準の透明性を高めるため、2026 年度入試より入学試験要項に「評価割合」および「評価の観点」を明記している。

一般選抜の「英語」科目については、新学習指導要領への対応として、文部科学省が示す「総合的な英語力評価の推進の考え方」に基づき、2025 年度入試より評価方法を見直した。具体的には、英語 4 技能（読む・聞く・話す・書く）を総合的に評価する観点から、従来の個別試験を廃止し、英語外部試験のスコアまたは大学入学共通テスト「外国語（英語）」の得点を換算して評価に活用している。

2027 年度入試においてもこの方式を継続し、グローバル社会で求められる実践的な英語運用能力の評価を行う。

学部等名 観光学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_tourism/policy/) 観光学部ではグローバル時代におけるツーリズムを通じて、社会の持続的発展に広く貢献できる人材の養成を目指す。 具体的には、組織経営の知識、情報分析力、課題発見力、問題解決力、異文化適応力、コミュニケーション能力を駆使してツーリズムの意義と役割および諸課題を洞察し、持続的に成長・発展する社会の実現に貢献できる人材を養成する。 ツーリズムと組織経営について、その基礎基本となる知識を体系的に学修し、そこで修得した知見を基に、幅広い観点からツーリズムという現象の意義や役割を理解する。さらに現状の諸課題を社会科学的な方法論に基づいて認識し、社会の持続的な成長や発展につながる解決策を提示できる能力を培う。 グローバル時代の観光・ホスピタリティ産業にあつては、国際共通語としての英語力はコミュニケーション能力の一部として必須であるとの前提にたち、その高度な運用力の修得を図る。また、自らの歴史や文化、伝統のアイデンティティを十分に理解した上で、異文化理解・適応力に代表される多様な価値観と共生できる力を培う教育・研究を行う。 教育課程は、「ツーリズムと組織経営全般に関する知識」を体系的に修得させると、「英語運用力」の向上を図ることを主軸として編成されている。この教育課程を通して、「人的ネットワークを構築する力」「情報分析力」「異文化理解・適応力」「社会的責任と倫理観」「洞察力と問題解決力」などを身に付けた「国の内外でツーリズムと社会の持続可能な発展に貢献できる人材」を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_tourism/policy/) (概要) 観光学部では、人材養成等教育研究に係る目的に基づくカリキュラムを通して、以下の能力を学士力として修得し、卒業要件を充足した人に、学士（観光学）の学位を授与します。 ①ツーリズムと社会科学に関する幅広い知識とマネジメントの基礎を身に付け、ツーリズムという現象を多様な観点から分析することができる。【知識・理解】 ②ツーリズムやマネジメントの新たな問題を発見し、適切な情報収集とその分析を通じて、自らの解決策を考え、他者に提示することができる。【思考・判断】 ③高い倫理観を持ち、国の内外において先見性と独自性に富んだビジネスに取り組む素地を体得している。【態度】 ④自らの文化的アイデンティティを理解し、異文化に対する理解と適応力を持ち、多様な価値観と共生することができる。【関心・意欲】 ⑤ビジネスの現場で的確なコミュニケーションをとることが可能となる高度な英語運用力を修得している。英語レベルとして、グローバルエリートコースはTOEIC®L&R800以上（またはIELTS TM6.5以上）、リージョナルリーダーコースはTOEIC®L&R700以上（またはIELTS TM5.5以上）のスコアを保有している。【技能・表現】
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_tourism/policy/) 観光学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、以下の通りのカリキュラムを編成しています。 ①1年間の海外留学プログラムを含めて4年間の在籍で卒業が可能となるように設計する。 ②留学出発前の第1セメスターから第3セメスターまでは、国際共通語である英語力の伸長を図ることに力点を置くカリキュラムとする。同時に、情報の分析力の育成を重視した科目を配置する。また、ツーリズムやマネジメントに関する基礎的な科目を履修できるようにする。 ③第4セメスターおよび第5セメスターでは、「観光学部留学プログラム」に参加し、高

度な英語力への伸長を図るとともに、異文化を理解し、交流を実践し、多様な価値観を有する人々と共生できるようにする。

④留学終了後の第6セメスターから第8セメスターでは、主としてツーリズムとマネジメント全般に関する専門的な学修を集中的に行うべく、「グローバルエリート」「リージョナルリーダー」の2コースを設定し、英語による授業を含めた多様な専門科目を体系的に配置する。幅広い観点から専門的な理解を深め、ツーリズムの意義や役割、現状と課題を洞察し、持続的に成長・発展する社会の実現に貢献できる能力を養成する。さらに、自身の関心を持った分野について、問題の発見、情報の収集と分析、解決策の提示を行う機会を提供し、実践力を養成する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_tourism/policy/)

(概要)

観光学部では、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行い、養成する人材像や教育課程との関連性を踏まえて、入学志願者が高等教育を受けるに相応しい資質や能力を有しているかを多面的に判定します。

特に、組織経営の知識、情報分析力、課題発見力、問題解決力、異文化適応力、コミュニケーション能力を駆使してツーリズムの意義と役割および諸課題を洞察し、持続的に成長・発展する社会の実現に貢献できる人材を養成することから、次のような基本的な考え方・方針で学生の受入れを行います。

①高等学校の課程における主要な科目（英語、国語、数学、地理、歴史）の教科書レベルの基礎知識を修得し、特に英語の学習で成果を上げた人。【知識・理解】

②情報通信技術（ICT）を用いた情報の収集や計数で思考・判断することについて学ぶ意欲がある人。【思考・判断】

③本学部生に義務化されている海外留学プログラムに1年間参加できる人。【態度】

④地域活動やボランティア活動、クラブ活動などで実績をあげ、リーダーシップを有し、チームワークをとって行動できる人。さらに、本学部・学科で学んだことを活かし、卒業後に観光・ホスピタリティ産業や社会の持続的発展に関わる分野で活躍する意欲を有する人。【関心・意欲】

⑤入学時に実用英語技能検定準2級程度以上、IELTSTM3.5以上、またはTOEIC®L&R400点以上に相当するレベルの英語運用力を有する人。グローバルエリートコースを志願する人は、実用英語技能検定2級程度以上、IELTSTM5.0以上、またはTOEIC®L&R550以上に相当するレベルの英語運用力を有する人。【技能・表現】

〈入試に係る取組・改善状況〉

総合型選抜および学校推薦型選抜においては、受験生に対する評価基準の透明性を高めるため、2021年度入試より入学試験要項に「評価割合」および「評価の観点」を明記している。

2026年度入試においてもこれを継続し、評価項目の配分および評価視点を明確に示すことで、観光学部が求める学生像の理解促進および適切な志願者の確保を図っている。

出願資格においては、高等学校における学習成績の状況が本学の定める基準に満たない場合であっても、本学が指定する資格・検定試験において一定以上の級またはスコアを取得している場合には出願を認める措置を講じている。

一般選抜においては、受験生に対する評価基準の透明性を高めるため、2026年度入試より入学試験要項に「評価割合」および「評価の観点」を明記している。

一般選抜の「英語」科目については、新学習指導要領への対応として、文部科学省が示す「総合的な英語力評価の推進の考え方」に基づき、2025年度入試より評価方法を見直した。具体的には、英語4技能（読む・聞く・話す・書く）を総合的に評価する観点から、従来の個別試験を廃止し、英語外部試験のスコアまたは大学入学共通テスト「外国語（英語）」の得点を換算して評価に活用している。

2027 年度入試においてもこの方式を継続し、グローバル社会で求められる実践的な英語運用能力の評価を行う。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.tamagawa.jp/introduction/outline/tree.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1 人	－					1 人
文学部	－	14 人	4 人	4 人	0 人	0 人	22 人
農学部	－	22 人	7 人	7 人	0 人	8 人	44 人
工学部	－	22 人	10 人	7 人	0 人	4 人	43 人
経営学部	－	7 人	3 人	4 人	0 人	0 人	14 人
教育学部	－	33 人	11 人	6 人	0 人	0 人	50 人
芸術学部	－	18 人	13 人	4 人	0 人	5 人	40 人
リベラルアーツ学部	－	14 人	7 人	3 人	0 人	0 人	24 人
観光学部	－	11 人	2 人	1 人	0 人	0 人	14 人
大学院	－	8 人	4 人	0 人	0 人	0 人	12 人
附置研究所	－	31 人	9 人	7 人	4 人	1 人	52 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		632 人					632 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://unitama.tamagawa.ac.jp/kg/japanese/index.html					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
大学F D委員会を設置し、各種研修の開催および学生による授業アンケートの実施・分析等を行っている。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	140 人	176 人	125.7%	560 人	548 人	97.9%	－人	－人
農学部	295 人	322 人	109.2%	1,180 人	1,067 人	90.4%	－人	－人
工学部	240 人	241 人	100.4%	960 人	887 人	92.4%	－人	－人
経営学部	130 人	166 人	127.7%	520 人	524 人	100.8%	－人	－人
教育学部	295 人	346 人	117.3%	1,180 人	1,306 人	110.7%	－人	－人
芸術学部	270 人	231 人	85.6%	1,080 人	903 人	83.6%	－人	－人
リベラルアーツ学部	160 人	182 人	113.8%	640 人	651 人	101.7%	－人	－人

観光学部	120 人	93 人	77.5%	480 人	307 人	64.0%	— 人	— 人
教育学部 通信教育課程	1,500 人	49 人	3.3%	6,000 人	1,715 人	28.6%	— 人	190 人
合計	3,150 人	1,806 人	57.3%	12,600 人	7,908 人	62.8%	— 人	190 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	152 人 (100%)	4 人 (2.6%)	136 人 (89.5%)	12 人 (7.9%)
農学部	195 人 (100%)	14 人 (7.2%)	171 人 (87.7%)	10 人 (5.1%)
工学部	234 人 (100%)	28 人 (12.0%)	197 人 (84.2%)	9 人 (3.8%)
経営学部	119 人 (100%)	1 人 (0.8%)	109 人 (91.6%)	9 人 (7.6%)
教育学部	313 人 (100%)	9 人 (2.9%)	295 人 (94.2%)	9 人 (2.9%)
芸術学部	257 人 (100%)	5 人 (1.9%)	212 人 (82.5%)	40 人 (15.6%)
リベラルアーツ学部	180 人 (100%)	0 人 (0.0%)	167 人 (92.8%)	13 人 (7.2%)
観光学部	70 人 (100%)	1 人 (1.4%)	63 人 (90.0%)	6 人 (8.6%)
合計	1,520 人 (100%)	62 人 (4.1%)	1,350 人 (88.8%)	108 人 (7.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
教育・学習支援業、卸売・小売業、情報通信業、サービス業、製造業、不動産業、金融業、大学院進学 他				
(備考)				
就職先の詳細はURLより確認 : https://www.tamagawa.jp/university/career/data/				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	171 人 (100%)	147 人 (86.0%)	10 人 (5.8%)	14 人 (8.2%)	0 人 (0.0%)
農学部	237 人 (100%)	181 人 (76.4%)	21 人 (8.9%)	35 人 (14.8%)	0 人 (0.0%)
工学部	296 人 (100%)	219 人 (74.0%)	37 人 (12.5%)	40 人 (13.5%)	0 人 (0.0%)
経営学部	167 人 (100%)	112 人 (67.1%)	18 人 (10.8%)	37 人 (22.2%)	0 人 (0.0%)
教育学部	325 人 (100%)	306 人 (94.2%)	9 人 (2.8%)	10 人 (3.1%)	0 人 (0.0%)
芸術学部	283 人 (100%)	241 人 (85.2%)	16 人 (5.7%)	26 人 (9.2%)	0 人 (0.0%)
リベラルアーツ学部	193 人 (100%)	170 人 (88.1%)	16 人 (8.3%)	7 人 (3.6%)	0 人 (0.0%)
観光学部	69 人 (100%)	50 人 (72.5%)	11 人 (15.9%)	8 人 (11.6%)	0 人 (0.0%)
合計	1,741 人 (100%)	1,426 人 (81.9%)	138 人 (7.9%)	177 人 (10.2%)	0 人 (0.0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関する事

(概要) 教養豊かな幅広い知識をもち、基礎学力の堅固な基盤と高度な専門能力をもった有為な人材を育成するために、ユニバーシティ・スタンダード科目・学科科目・大学院科目で構成するカリキュラムを用意している。授業の理解度を高めるために、各授業の前後に同程度の時間、予習・復習を行うことを推奨し履修する授業が連続しないように空き時間を設けさせ、履修計画させている。履修計画をたてるうえで、学科の卒業要件、必修科目の開講期、教育職員免許上の取得、資格の取得に必要な科目のチェック等を確認させ、留意事項等を学生へは履修ガイドに掲載して周知している。 通信教育課程においても、授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画は通学課程と同様に整備している。 ただし、自宅学習を基本とする「印刷教材等による授業（本学ではテキスト履修と称する）」については、対面による授業を実施しないことから、「毎回の学修テーマ・課題」に代えて、当該科目の「レポート課題」及び「レポート作成に当たっての留意事項」を明示するなどの工夫を行っている。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関する事

(概要) 履修登録の上限単位を各セメスターで 16 単位としている。大学での学修は授業とその予習・復習を行うことを必要とする内容で構成しており、1 週間の必要となる学修時間を考え履修可能な上限単位を設定した。GPA 制度を活用し、各セメスター終了時に、学修状況を確認している。卒業要件、警告制度、教職課程・資格受講条件、教職課程受講・受講継続条件、SAE 海外留学・研修プログラムの受講条件、奨学金の申請条件等に GPA を使用しており、学生へは履修ガイドに掲載して周知している。 通信教育課程における学修成果の評価については、玉川大学教育学部教育学科通信教育課程規
--

程に基づき、成績は「S・A・B・C・F」の5段階で評価し、「S・A・B・C」を合格、「F」を不合格として取り扱っている。各科目の評価方法については、シラバスに記載された到達目標の達成度を基準とし、テキスト履修科目においては科目試験、スクーリング科目においては試験又はレポート等により、厳格かつ適正に評価を行っている。

なお、通信教育課程においてはGPA制度は導入していないが、従来の成績評価基準に基づき、学修成果の到達状況を的確に把握し、公正な評価を実施している。

また、卒業要件については、玉川大学教育学部教育学科通信教育課程規程および学生要覧に記載し、学生に明示している。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	国語教育学科	124 単位	(有) 無	16 単位
	英語教育学科	124 単位	(有) 無	16 単位
農学部	生産農学科	124 単位	(有) 無	16 単位
	環境農学科	124 単位	(有) 無	16 単位
	先端食農学科	124 単位	(有) 無	16 単位
工学部	情報通信工学科	124 単位	(有) 無	16 単位
	ソフトウェアサイエンス学科	124 単位	(有) 無	16 単位
	マネジメントサイエンス学科	124 単位	(有) 無	16 単位
	デザインサイエンス学科	124 単位	(有) 無	16 単位
	エンジニアリングデザイン学科	124 単位	(有) 無	16 単位
経営学部	国際経営学科	124 単位	(有) 無	16 単位
教育学部	教育学科	124 単位	(有) 無	16 単位
	乳幼児発達学科	124 単位	(有) 無	16 単位
芸術学部	音楽学科	124 単位	(有) 無	16 単位
	アート・デザイン学科	124 単位	(有) 無	16 単位
	演劇・舞踊学科	124 単位	(有) 無	16 単位
	芸術教育学科	124 単位	(有) 無	16 単位
リベラル アーツ学 部	リベラルアーツ 学科	124 単位	(有) 無	16 単位
観光学部	観光学科	124 単位	(有) 無	16 単位
教育学部 通信教育 課程	教育学科	124 単位	(有) 無	年間 40 単位
GPA の活用状況 (任意記載事項)		公表方法： https://www.tamagawa.ac.jp/student_guidebook/2026/courses/index.html# P30 GPA 制度		
学生の学修状況に係る参考 情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.tamagawa.jp/university/introduction/information/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
文学部	国語教育	1,038,000 円	250,000 円	759,032 円	<その他の内訳> 通学課程 ・施設設備金 ・教育研究諸料 ・休学在籍料
	英語教育	1,038,000 円	250,000 円	759,032 円	
農学部	生産農学	1,062,000 円	250,000 円	879,032 円	通信教育課程 ・学修料 ・休学諸費
	環境農学	1,062,000 円	250,000 円	879,032 円	
	先端食農学	1,062,000 円	250,000 円	888,332 円	
工学部	情報通信工	1,118,000 円	250,000 円	899,032 円	* 各学部年次進行に伴い、前年度授業料に対して10,000 円の改定(教育学部通信教育課程を除く)。 なお、工学部エンジニアリングデザイン学科の授業料は改組による募集停止のためエンジニアリングデザイン学科は4年生の額を記載。 また、英語教育学科は2年次秋 semester の海外留学プログラム(選択科目)実施のため、掛かる留学授業料と当該 semester の本学授業料との差額を別途徴収(預り金経理の予定)。 環境農学科は2 年次に海外研修プログラム(必修科目)実施のため、掛かる研修授業料と当該 semester の本学授業料との差額を別途徴収。観光学科は2 年次秋 semester ～3 年次春 semester の海外留学プログラム(必修科目)実施のため、掛かる留学授業料と当該 semester の本学授業料との差額を別途徴収。 * 通信教育課程においては、スクーリング、教育実習、介護等体験の受講時に別途受講料を徴収。
	ソフトウェアサイエンス	1,118,000 円	250,000 円	899,032 円	
	マネジメントサイエンス	1,118,000 円	250,000 円	899,032 円	
	デザインサイエンス	1,118,000 円	250,000 円	899,032 円	
	エンジニアリングデザイン	1,139,000 円	250,000 円	899,032 円	
経営学部	国際経営	1,038,000 円	250,000 円	759,032 円	また、英語教育学科は2年次秋 semester の海外留学プログラム(選択科目)実施のため、掛かる留学授業料と当該 semester の本学授業料との差額を別途徴収(預り金経理の予定)。
教育学部	教育	1,038,000 円	250,000 円	769,032 円	
	乳幼児発達	1,038,000 円	250,000 円	769,032 円	また、英語教育学科は2年次秋 semester の海外留学プログラム(選択科目)実施のため、掛かる留学授業料と当該 semester の本学授業料との差額を別途徴収(預り金経理の予定)。
芸術学部	音楽	1,208,000 円	250,000 円	879,032 円	
	アート・デザイン	1,208,000 円	250,000 円	879,032 円	
	演劇・舞踊	1,208,000 円	250,000 円	879,032 円	また、英語教育学科は2年次秋 semester の海外留学プログラム(選択科目)実施のため、掛かる留学授業料と当該 semester の本学授業料との差額を別途徴収(預り金経理の予定)。
リハビリアート	リハビリアート	1,038,000 円	250,000 円	759,032 円	
観光学部	観光	1,038,000 円	250,000 円	759,032 円	また、英語教育学科は2年次秋 semester の海外留学プログラム(選択科目)実施のため、掛かる留学授業料と当該 semester の本学授業料との差額を別途徴収(預り金経理の予定)。
教育学部 通信教育 課程	教育	130,300 円	30,000 円	77,150 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) [学生支援センター] <学生の生活支援に関する方針> 本学では12の教育信条の一つに「個性尊重」を掲げ、大学教育棟4階には「Let every bird sing its own note.」と書かれている。このように、本学では一人一人の個性を十分に発揮できるよう努めている。その中で特に学生支援センターでは学生が心身ともに健康で安心・安全で安定した学生生活が送れるよう、学生委員会及び課外活動支援委員会を組織し、奨学金などの「経済的支援」、事件事故を未然に防ぎ、学生相談や学生指導を行う「生活支援」、クラブ・サークル活動等の「課外活動支援」の3つの柱を中心とした支援体制を構築する。

b. 進路選択に係る支援に関する取組 (概要) [キャリアセンター] キャリアセンターでは企業・公務員の志望者に対して、本学の「進路・就職支援ガイドライン」に沿った進路・就職支援を行っている。 〈進路・就職支援ガイドライン〉 1. 学生自身が卒業後に就業を通してやりがいを感じ、経済的に自立した社会人として更なる成長に繋がるよう、入学から卒業までの全期間でキャリアデザイン支援と就職支援を進める。 2. 各学部学科によるキャリア研修、キャリアセンターによる全学一括支援を両輪とし、学部教育活動を支援する。 3. キャリアセンターによる通年可能な面談体制と個別対応の「Face to Face」に注力する。 4. 求人情報、企業情報は学生向け学内システムで逐次公開する。 5. 卒業生（学友会員）の協力による学生支援を推進する。 6. 学修時間確保のため、ガイダンスの複数日程開催、休講日の活用。 [教師教育リサーチセンター] 玉川大学では、2006年4月教職に関する総合センターとして「教職センター」を設置し、さらなる“質の高い教員養成”と“教師教育学の研究活動推進”のために改組し、2012年4月に「教師教育リサーチセンター」を新設した。 教師教育リサーチセンターは、教職課程履修学生のサポートをする『教職課程支援室』、そして教師教育に関わる研究活動を推進する『教員研修室』の2つの部門から成り立っている。当センターは、これまでの教職課程支援事務のみならず、教師教育（教員養成・採用・研修）に関する研究・調査を行う研究機関の要素、さらには教育委員会、小・中・高等学校、幼稚園、保育所との連携を推進する機能をもつ全学教員養成の全体を包括する組織として位置付けられている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要) [保健センター 健康院] キャンパス内にある診療所（玉川大学・玉川学園の保健管理施設）。 診療は本学の学生・生徒・児童・園児および教職員が対象。 ＜診療＞ 内科を主とした外来診療を学校法人玉川学園の学生・生徒・児童・園児および教職員に行っている。 ＜心の相談（カウンセリング）＞ 学業や進路の悩み、人間関係の悩みなどに関して、臨床心理士の資格を持つカウンセラーによるカウンセリングを実施している。 ＜健康診断＞ 定期健康診断の他、体育会クラブ健診や留学プログラム帰国後の健診を実施している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.tamagawa.jp/university/introduction/information/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F113310103741
学校名 (〇〇大学 等)	玉川大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 玉川学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		1029人（ 676 ）人	1016人（ 662 ）人	1075人（ 714 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	221人	208人	
	(うち多子世帯)	(50人)	(43人)	
	第Ⅱ区分	109人	114人	
	(うち多子世帯)	(16人)	(14人)	
	第Ⅲ区分	82人	77人	
	(うち多子世帯)	(22人)	(18人)	
	第Ⅳ区分（理工農）	29人	30人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	82人	73人	
	区分外（多子世帯）	506人	514人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－ 人（ 0 ）人
合計（年間）				1079人（ 714 ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	13人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当	— 人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	— 人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	— 人	人	人
計	33人	人	人
(備考) 上記人数には、年度途中で退学となり退学時の適格認定で「廃止」となった学生を含んでおります。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	— 人	前半期	後半期
		人	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	— 人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	— 人	人	人
GPA等が下位4分の1	90人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	— 人	人	人
計	91人	人	人
(備考) 上記人数には、年度途中で退学となり退学時の適格認定で「警告」となった学生を含んでおります。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。